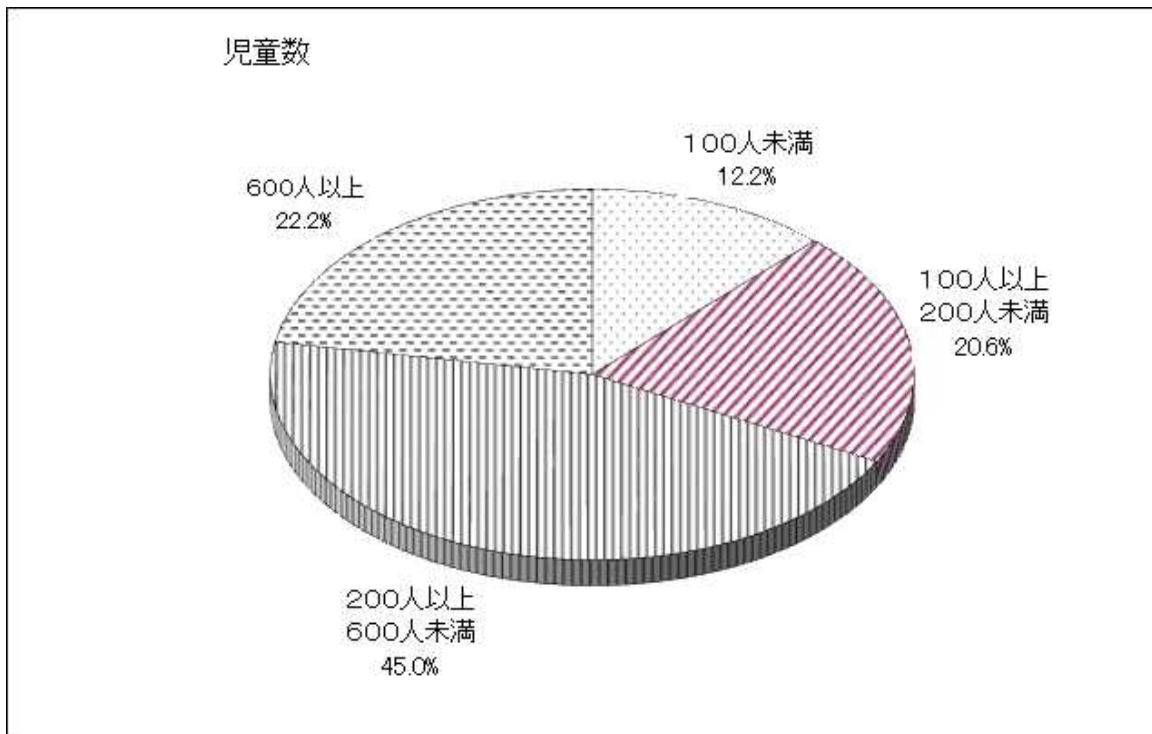


## 「小学校・学校調査」結果

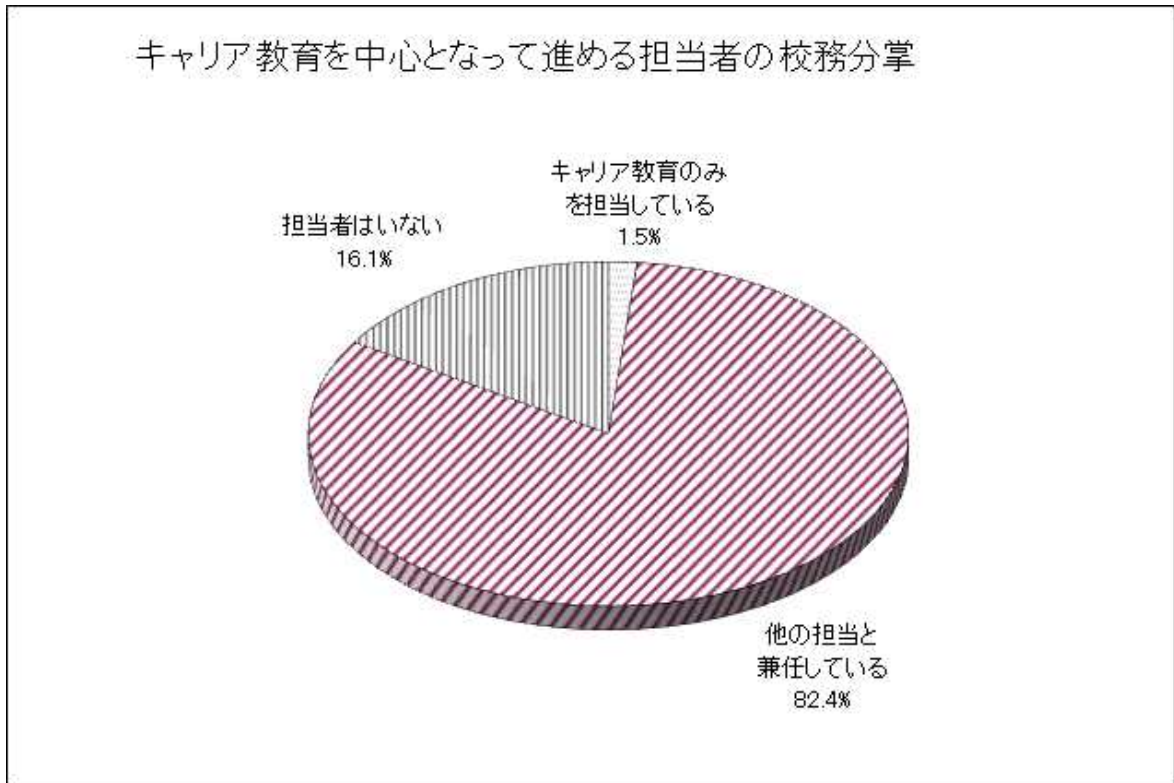
問1 貴校の児童数について、当てはまるものを一つ選んでください（平成 24 年 5 月 1 日現在）。



「200人以上 600人未満」が45.0%と最も高く、次いで「600人以上」22.2%、「100人以上 200人未満」20.6%、「100人未満」12.2%となっている。

**問2** 貴校のキャリア教育の企画や全体計画等の作成に主に関わる担当者や組織についてお尋ねします。

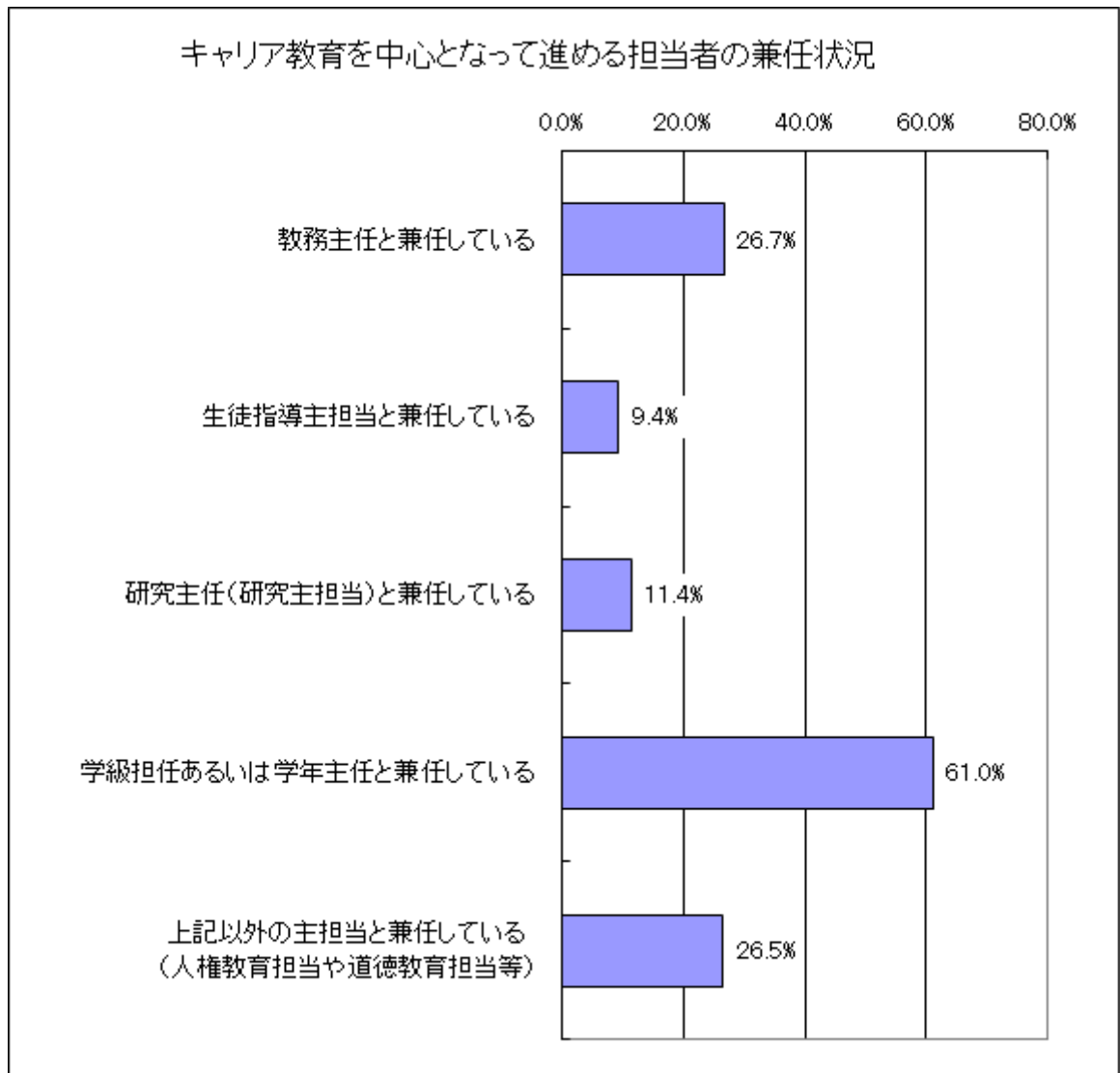
(1) キャリア教育の企画や全体計画等の作成を中心となって進める担当者の方は、校務分掌上、次のいずれに該当しますか。当てはまるものを一つ選んでください。



「ほかの担当と兼任している」が 82.4%と最も高く「キャリア教育のみを担当している」は 1.5%にすぎず、ほとんどが兼任である。一方「担当者がいない」が 16.1%となっている現況である。

(2) (1)で「2 ほかの担当と兼任している」と答えた方にお尋ねします。

キャリア教育の企画や全体計画等の作成を中心となって進める担当者の兼任の状況について、当てはまるものを全て選んでください。

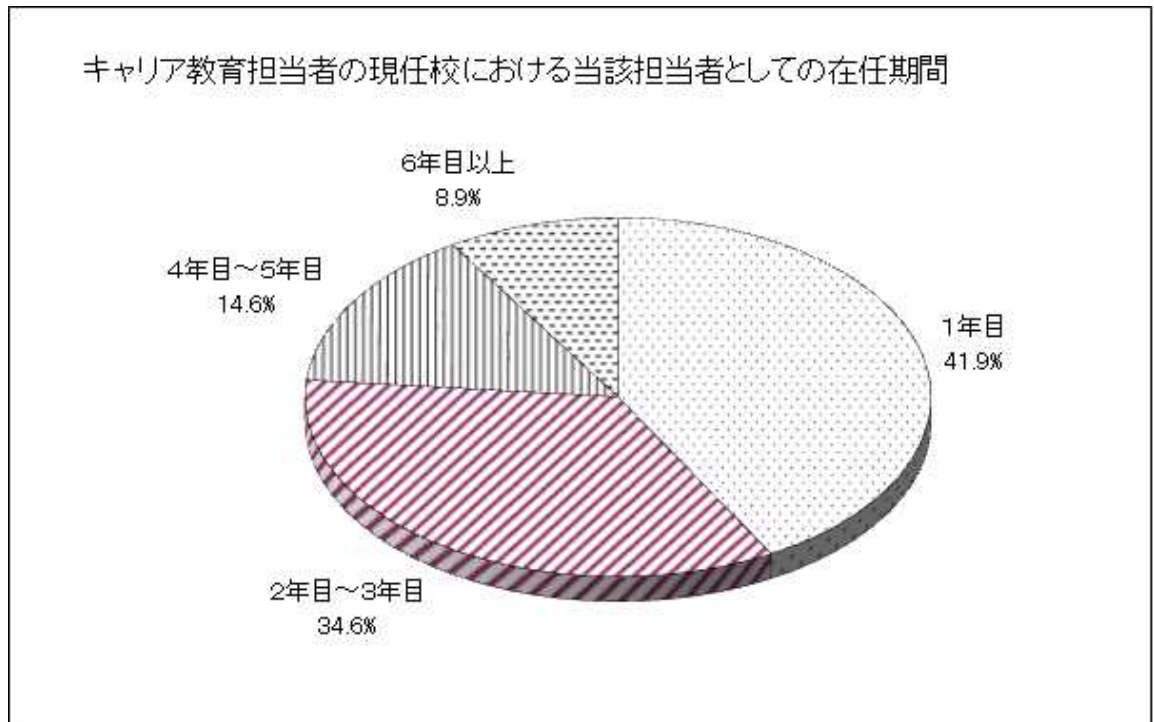


兼任の状況は、「学級担任あるいは学年主任と兼任している」が 61.0%と最も高く、次いで「教務主任と兼任している」26.7%、「研究主任（研究主担当）と兼任している」11.4%、「生徒指導主任と兼任している」9.4%となっている。

一方「上記以外の主担当と兼任している（人権教育担当や道徳教育担当等）」が 26.5%で、2番目に高い「教務主任と兼任している」とほぼ同等の割合である。

(3) 以下(3)～(7)は、(1)で「1 キャリア教育のみを担当している」「2 ほかの担当と兼任している」と答えた方にお尋ねします。

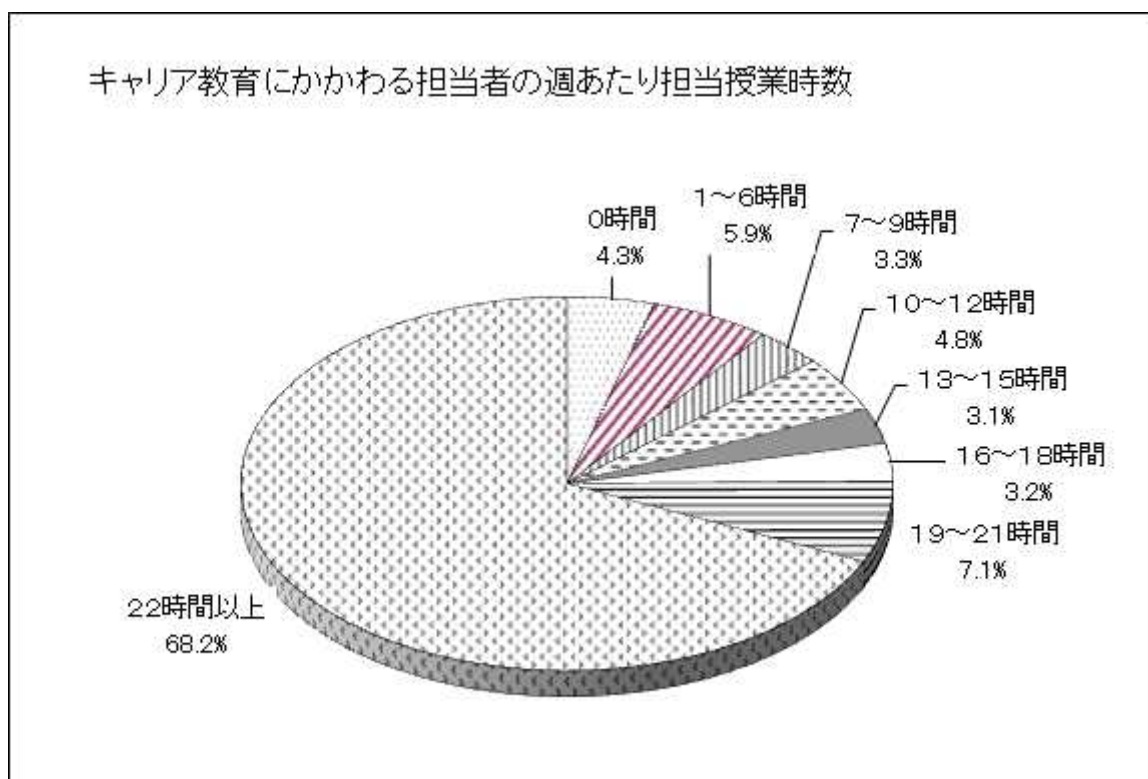
キャリア教育に関わる担当者の現任校における当該担当者としての在任期間について、当てはまるものを一つ選んでください。



キャリア教育担当者の在任期間は、「1年目」が41.9%と最も高く、次いで「2年目～3年目」が34.6%、「4年目～5年目」が14.6%、「6年目以上」8.9%となっている。

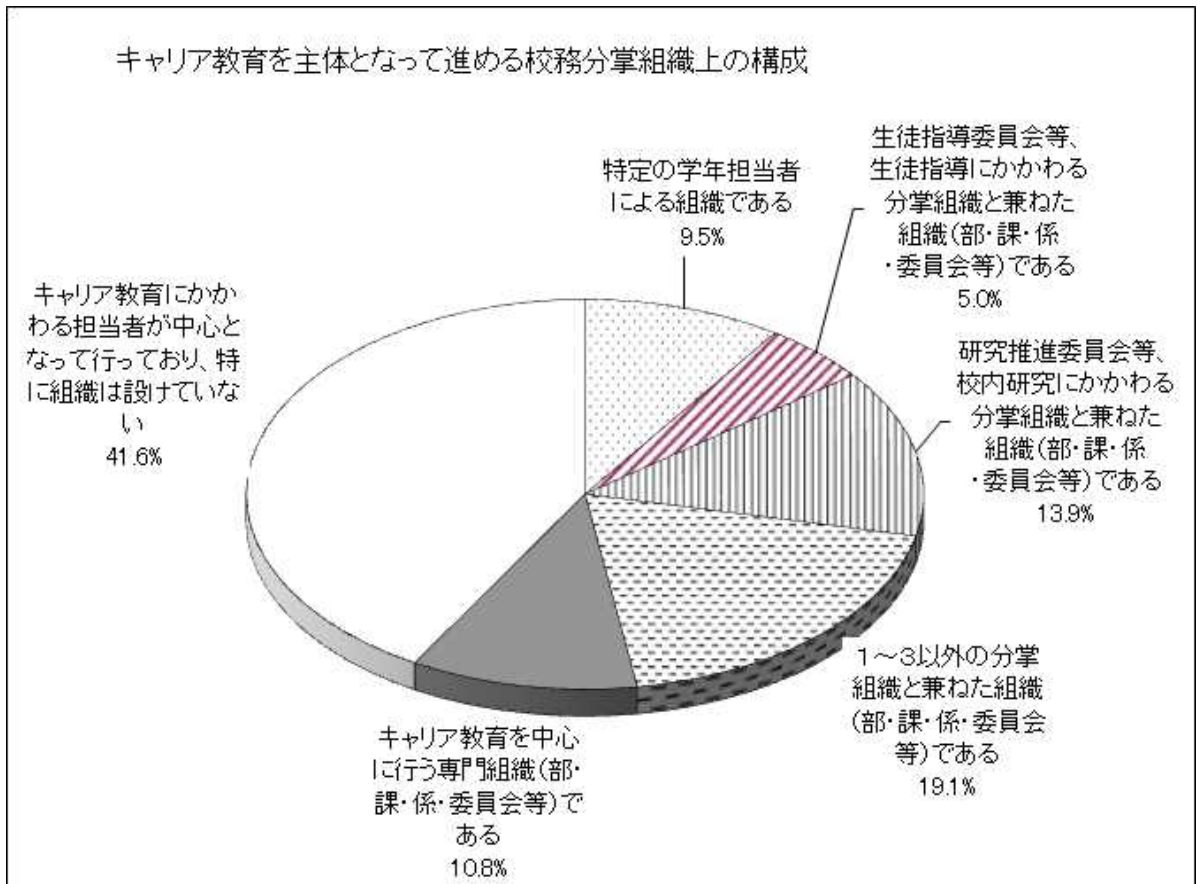
小学校においては、1年目から3年目の担当者の割合が8割近くを占めている。

(4) キャリア教育に関わる担当者の週あたり担当授業時数（教科、道徳、学級活動、総合的な学習の時間等を含む）について、当てはまるものを一つ選んでください。



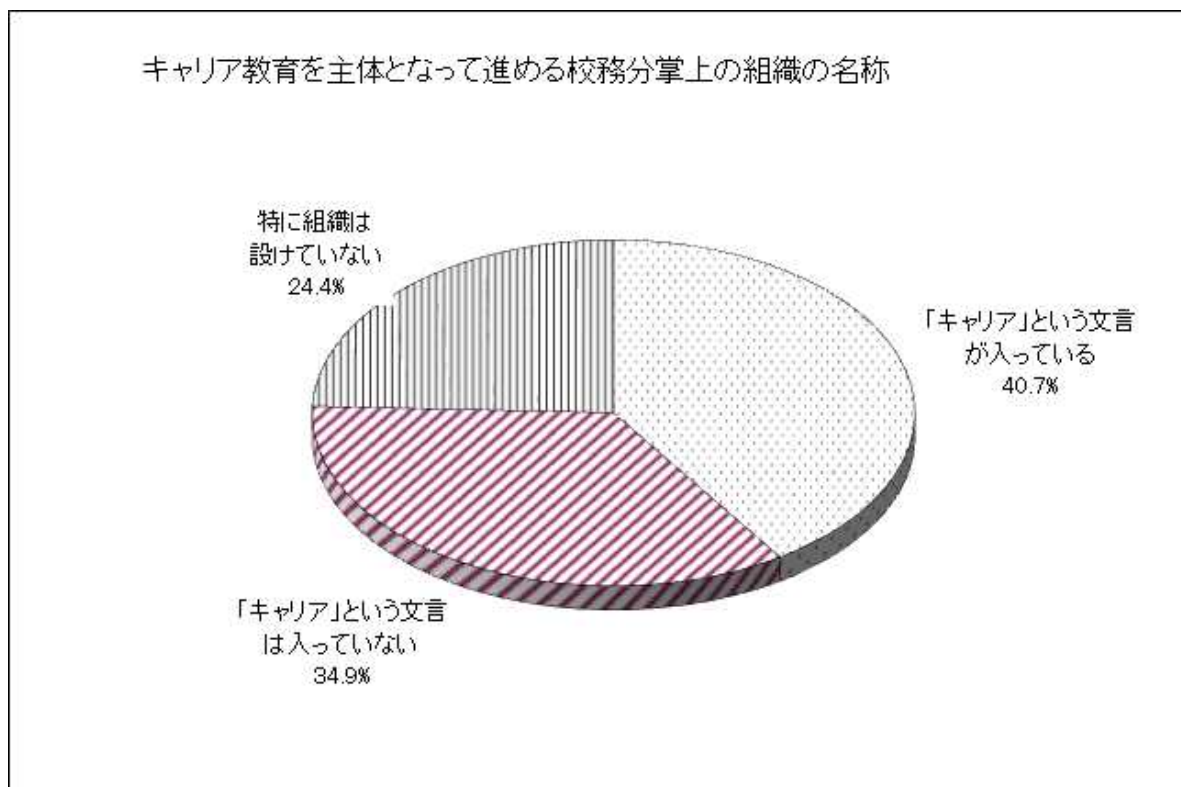
「22 時間以上」が最も高く 68.2%である。次いで「19～21 時間」7.1%、「1～6 時間」5.9%、「10～12 時間」4.8%、「0 時間」4.3%、「7～9 時間」3.3%、「16～18 時間」3.2%、「13～15 時間」3.1%となっている。

(5) キャリア教育の企画や全体計画等の作成を主体となって進める校務分掌組織上の構成について、当てはまるものを一つ選んでください。



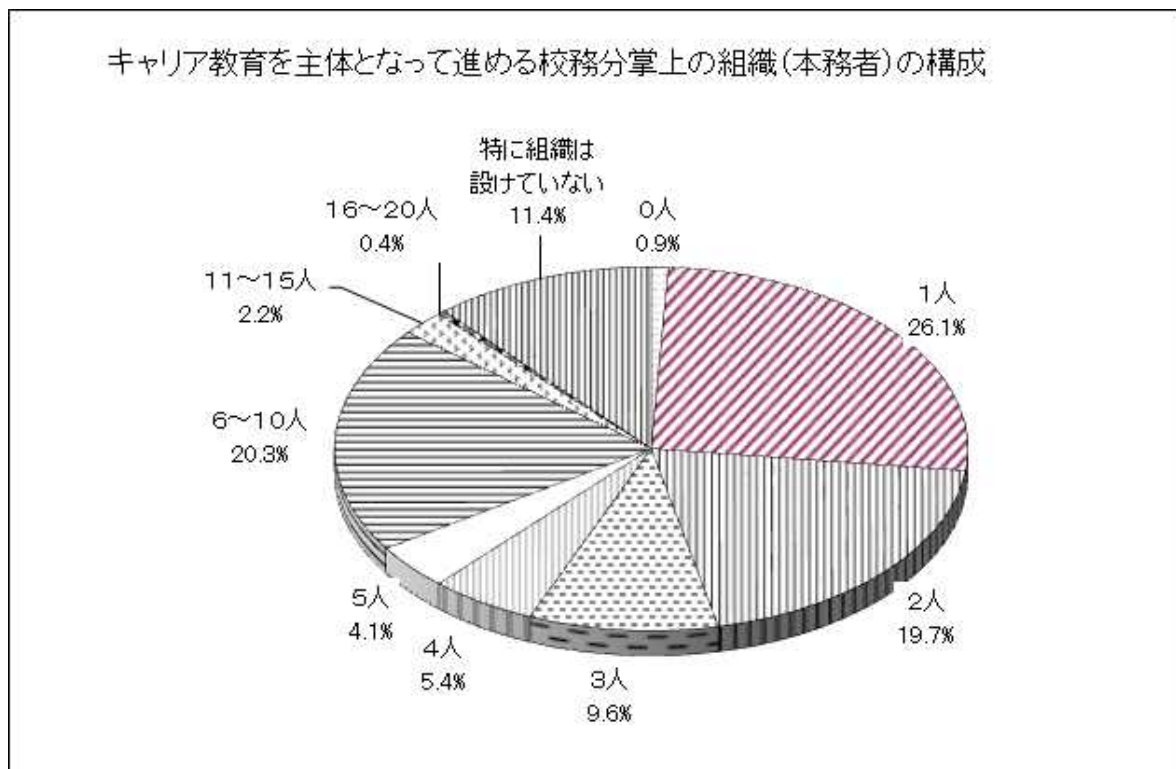
「キャリア教育に関わる担当者が中心となって行っており、特に組織は設けていない」が41.6%と最も高く、次いで「1～3以外の分掌組織と兼ねた組織(部・課・係・委員会)である」19.1%、「研究推進委員会等、校内研究に関わる分掌組織と兼ねた組織(部・課・係・委員会)である」13.9%、「キャリア教育を中心に行う専門組織である」10.8%、「特定の学年担当者による組織である」9.5%、「生徒指導委員会、生徒指導と関わる分掌組織と兼ねた組織(部・課・係・委員会)である」5.0%となっている。

- (6) キャリア教育の企画や全体計画等の作成を主体となって進める校務分掌上の組織の名称には、「キャリア」という文言が入っていますか。当てはまるものを一つ選んでください。



「『キャリア』という文言が入っている」は40.7%、「『キャリア』という文言は入っていない」は34.9%とほぼ同じ割合である。一方「特に組織は設けていない」が24.4%である。

(7) キャリア教育の企画や全体計画の作成を主体となって進める校務分掌上の組織（本務者）は何人で構成されていますか。当てはまるものを一つ選んでください。



「1人」が26.1%で最も高く、次いで「6～10人」20.3%、「2人」19.7%、「3人」9.6%の順になっている。一方、「0人」0.9%、「16人～20人」0.4%、「21人以上」は0.0%で、これらの項目は低い。

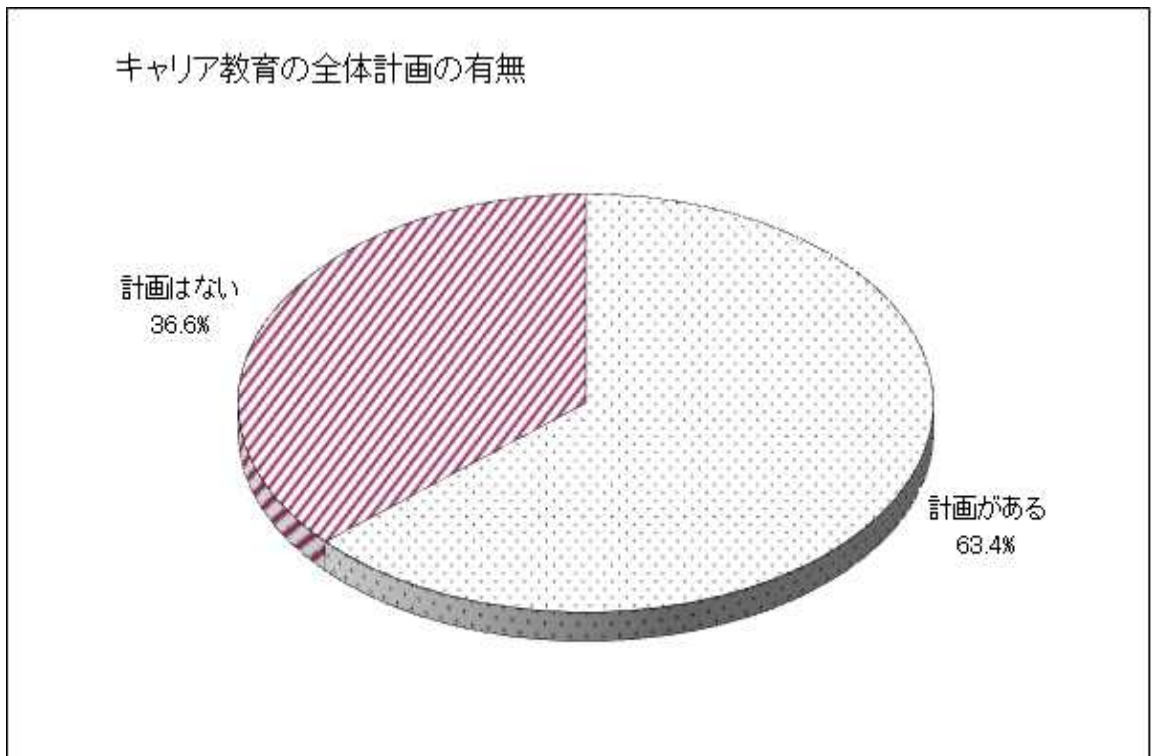
1～3人が合わせて55.4%と、半数以上を占めている。



**問3** 貴校の平成24年度のキャリア教育に関する計画についてお尋ねします。  
以下の設問にお答えください。

(1) 全体計画についてお尋ねします。

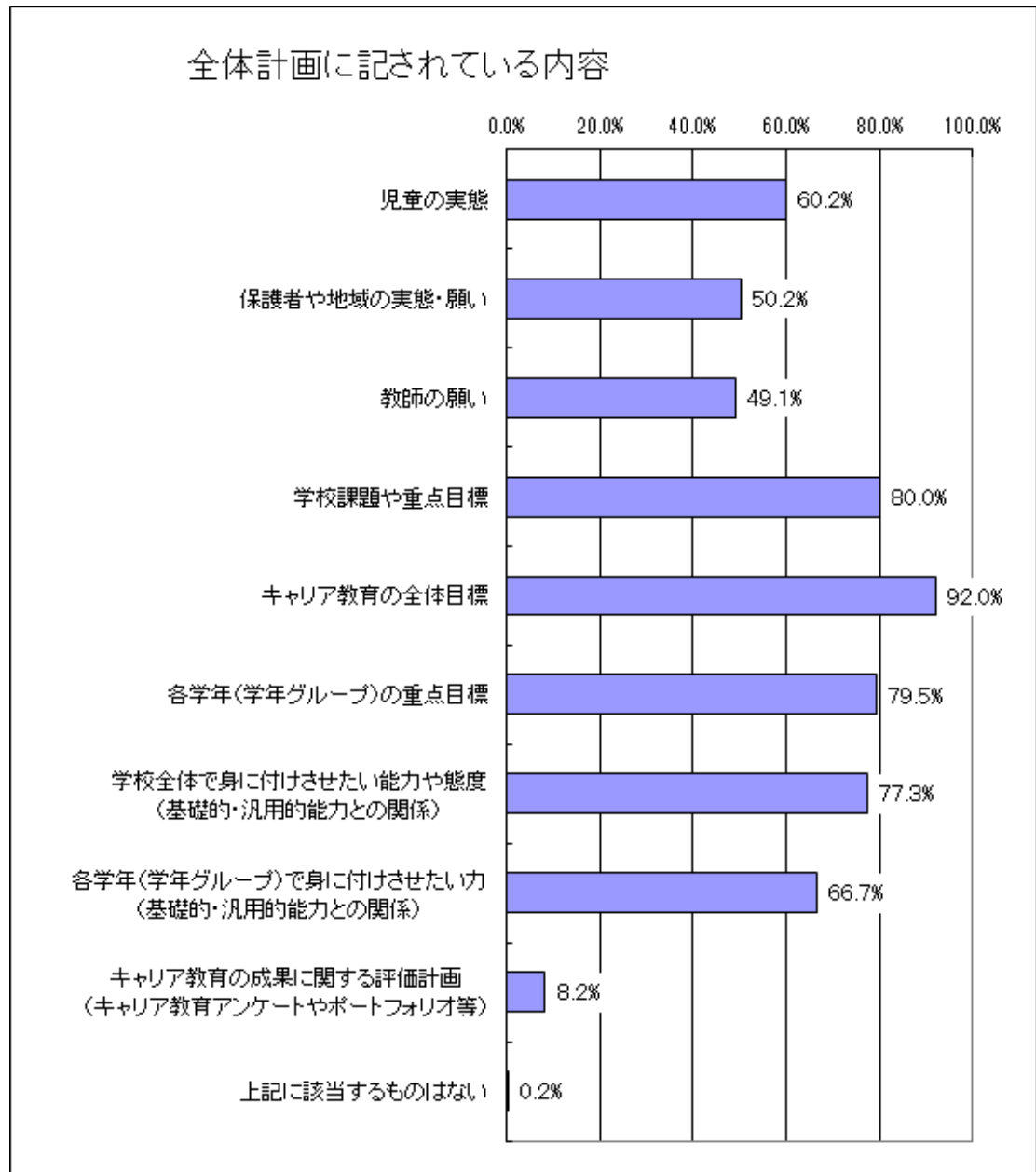
- ① 貴校には、キャリア教育の全体計画はありますか。（「計画がある」とは、その内容が文章としてまとめられ、教員に周知されているものをいいます。）当てはまるものを一つ選んでください。



全体計画の作成状況は、「計画がある」が 63.4%、「計画はない」が 36.6%である。

② ①で「1 計画がある」と答えた方にお尋ねします。

全体計画には、以下の内容が具体的に記されていますか。当てはまるものを全て選んでください。

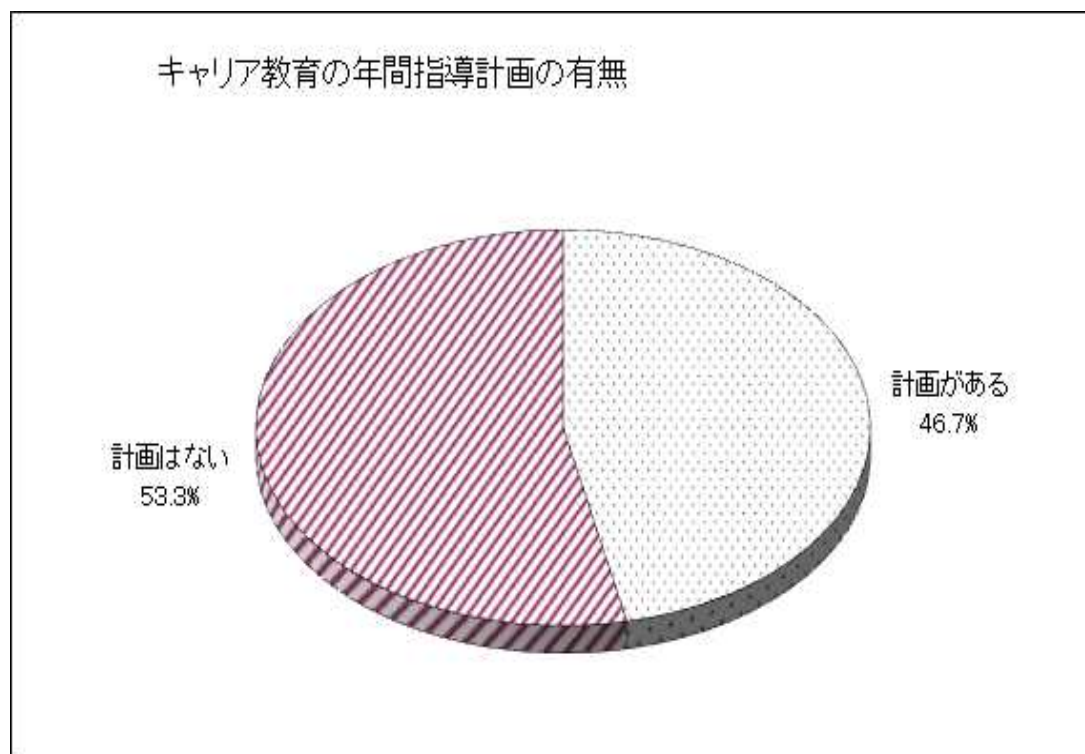


「キャリア教育の全体目標」が 92.0%と最も高く、次いで「学校課題や重点目標」80.0%、「各学年(学年グループ)の重点目標」79.5%、「学校全体で身に付けさせたい能力や態度(基礎的・汎用的能力との関係)」77.3%、「各学年(学年グループ)で身に付けさせたい力(基礎的・汎用的能力との関係)」66.7%、「児童の実態」60.2%、「保護者や地域の実態・願い」50.2%、「教師の願い」49.1%の順になっている。

一方上記の項目に比べ、「キャリア教育の成果に関する評価計画(キャリア教育アンケートやポートフォリオ等)」が 8.2%と低い。

(2) 年間指導計画についてお尋ねします。

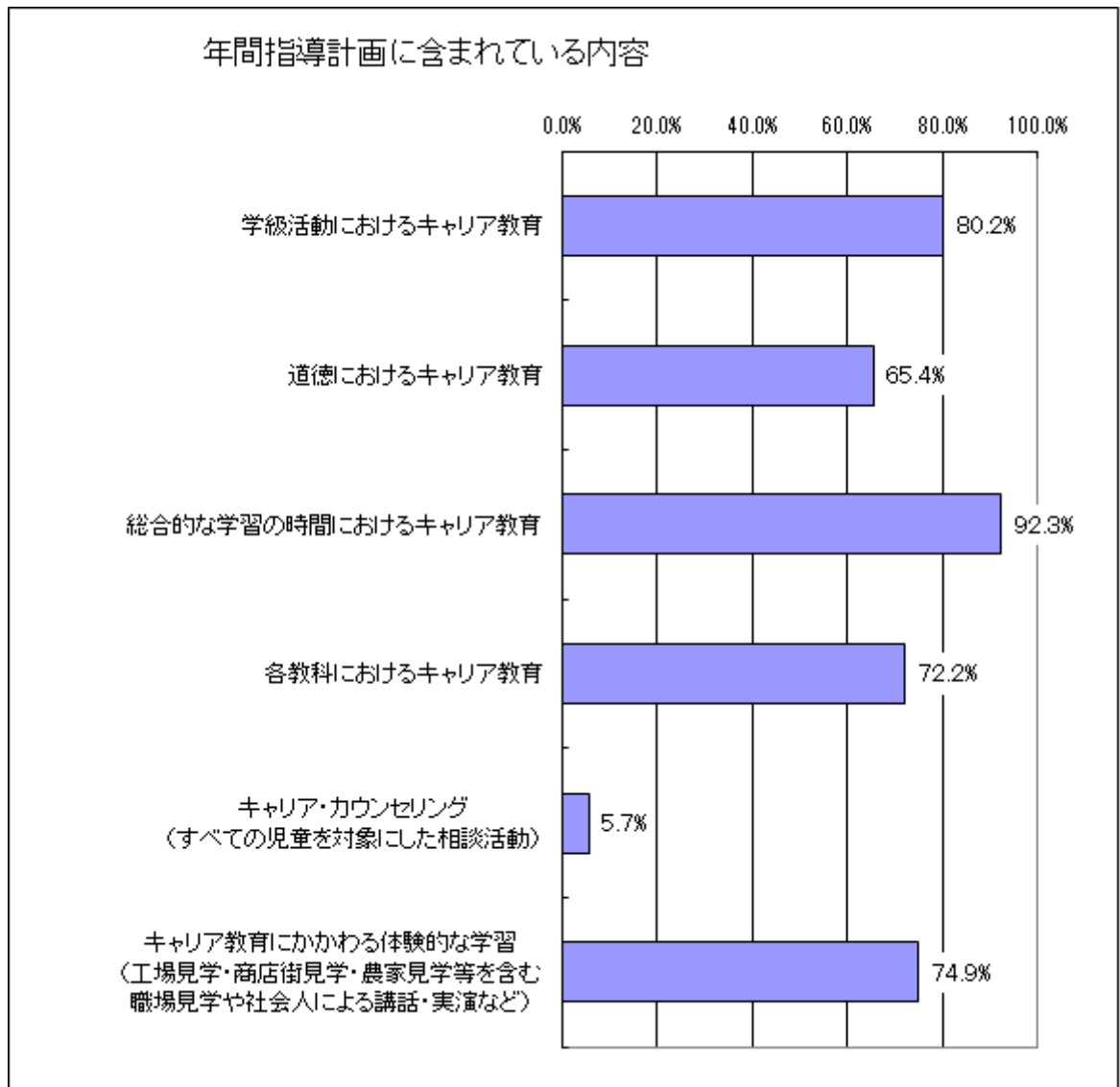
① 貴校には、キャリア教育の年間指導計画はありますか。（「計画がある」とは、指導の目標・内容や実施時期などが文章としてまとめられ、教員に周知されているものをいいます。）当てはまるものを一つ選んでください。



「計画がある」が、46.7%、「計画はない」が、53.3%である。

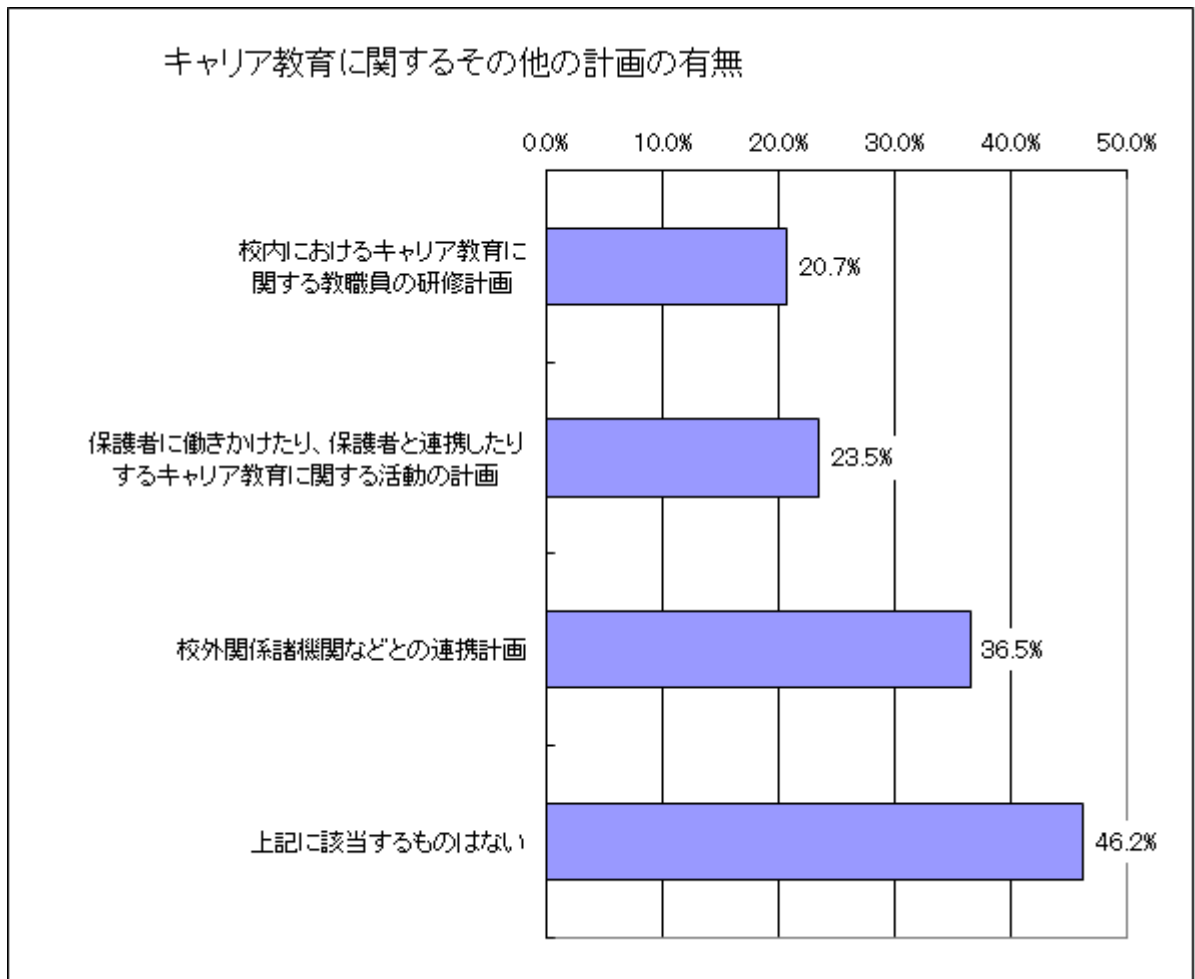
③ (2)①で「1 計画がある」と答えた方にお尋ねします。

年間指導計画には、以下の内容が含まれていますか。当てはまるものを全て選んでください。



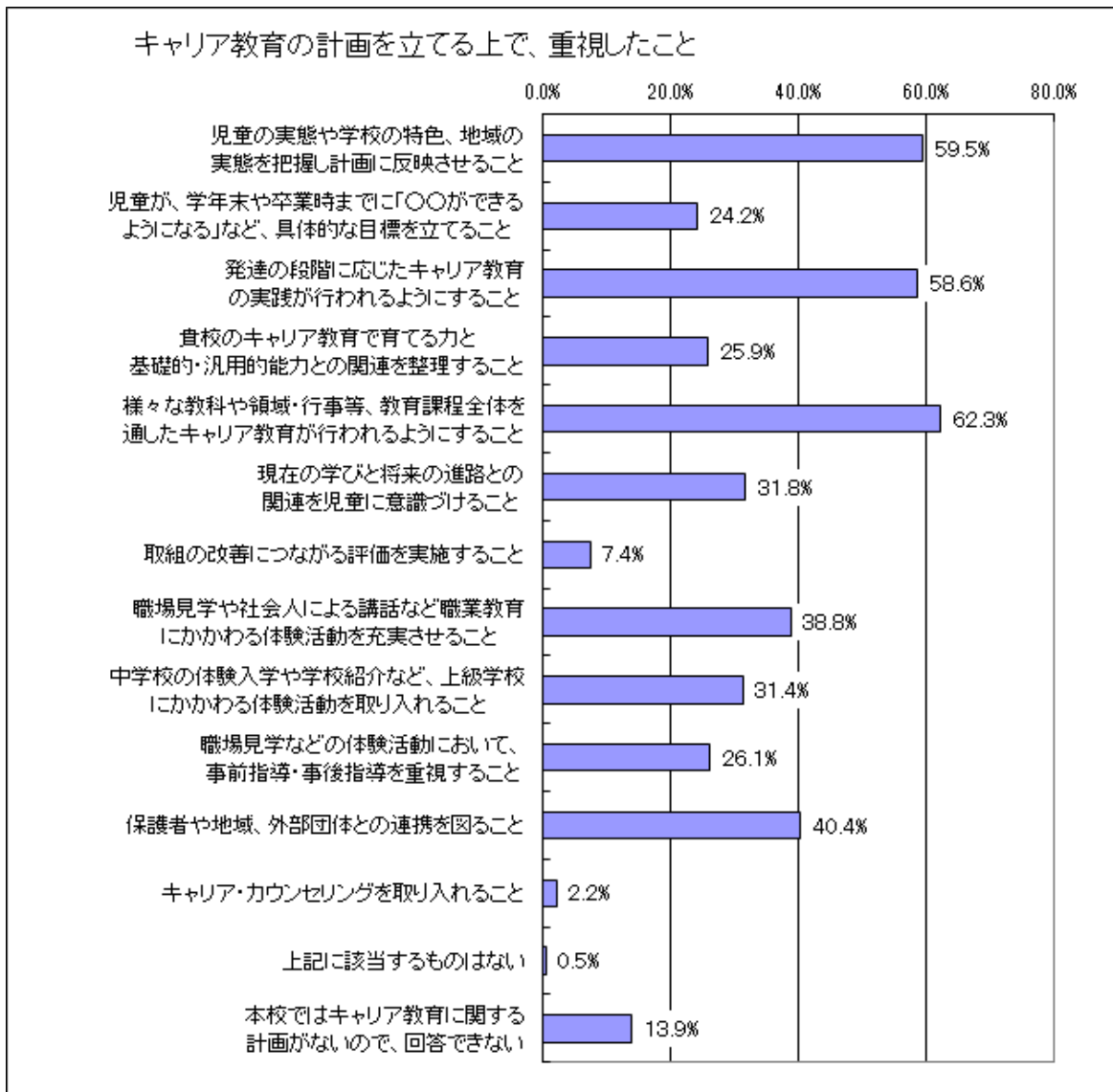
「総合的な学習の時間におけるキャリア教育」が 92.3%と最も高く、次いで「学級活動におけるキャリア教育」80.2%、「キャリア教育に関わる体験的な学習（工場見学・商店街見学・農家見学等を含む職場見学や社会人による講話・実演など）」74.9%、「各教科におけるキャリア教育」72.2%、「道徳におけるキャリア教育」65.4%となっている。一方、「キャリア・カウンセリング（全ての児童を対象にした相談活動）」は 5.7%と低い。

(3) その他の計画についてお尋ねします。貴校には、以下の計画はありますか。当てはまるものを全て選んでください。(全体計画の中に含まれている場合も「当てはまる」とお答えください。)



その他の計画については、「校外関係諸機関などとの連携計画」36.5%、「保護者に働きかけたり、保護者と連携したりするキャリア教育に関する活動の計画」23.5%、「校内におけるキャリア教育に関する教職員の研修計画」20.7%となっている。一方「上記に該当するものはない」は、46.2%である。

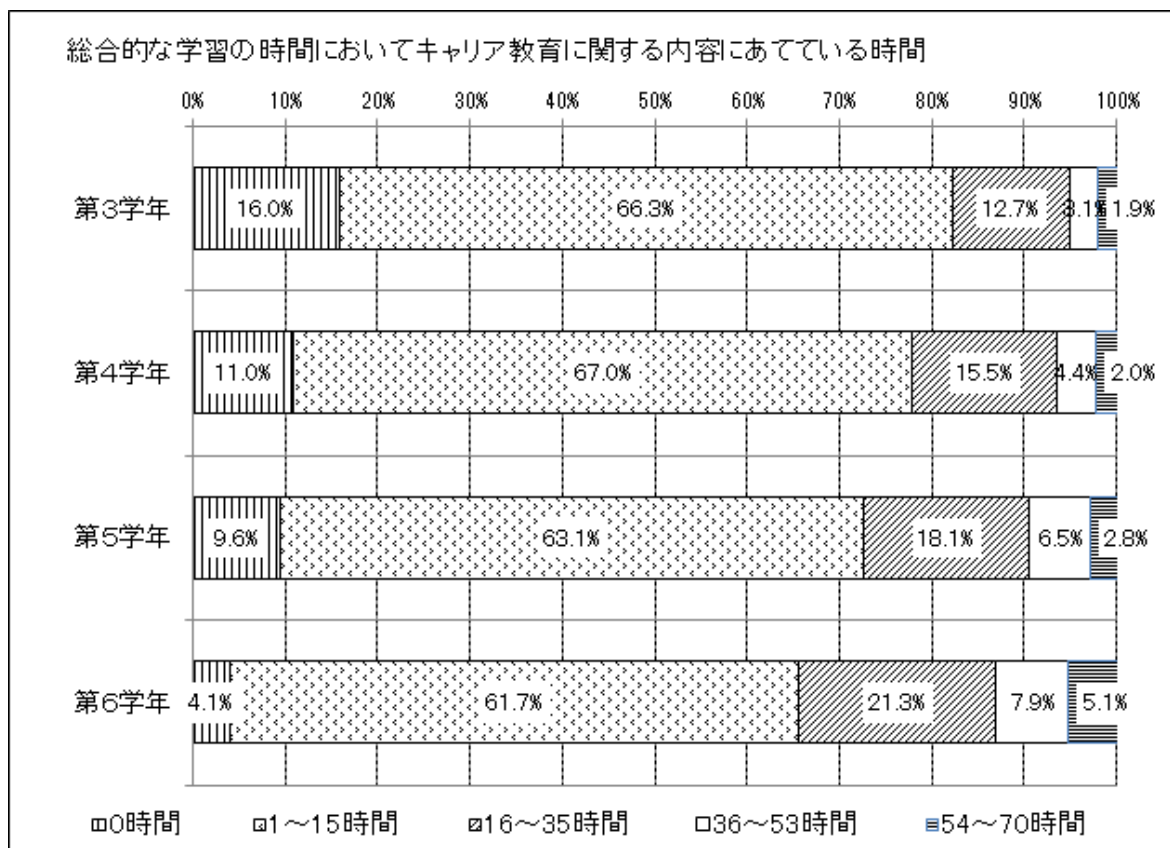
(4) 貴校が平成 24 年度のキャリア教育の計画を立てる上で、重視したことがらはどれですか。当てはまるものを全て選んでください。



「様々な教科や領域・行事等、教育課程全体を通したキャリア教育がおこなわれるようにすること」62.3%で最も高く、次いで「児童の実態や学校の特徴、地域の実態を把握し計画に反映させること」59.5%、「発達の段階に応じたキャリア教育の実践が行われるようにすること」58.6%、「保護者や地域、外部団体との連携を図ること」40.4%、「職場見学や社会人による講話など職業教育に関わる体験活動を充実させること」38.8%、「現在の学びと将来の進路との関連を児童に意識付けること」31.8%、「中学校の体験入学や学校紹介など、上級学校に関わる体験活動を取り入れること」31.4%、「職場見学などの体験活動において、事前指導・事後指導を重視すること」26.1%、「貴校のキャリア教育で育てる力と基礎的・汎用的能力との関連を整理すること」25.9%、「児童が、学年末や卒業時まで『〇〇ができるようになる』など、具体的な目標を立てること」24.2%の順である。

一方、「本校ではキャリア教育に関する計画がないので、回答できない」13.9%、「取組の改善につながる評価を実施すること」7.4%、「キャリア・カウンセリングを取り入れること」2.2%、「上記に該当するものはない」0.5%と低くなっている。

問4 総合的な学習の時間において、貴校で自己の生き方を考えさせるなどキャリア教育に関する内容にどのくらい時間を当てていますか。学年ごとに、当てはまるものを一つずつ選んでください。



全体では「1~15 時間」が最も高く、次いで「16~35 時間」、「0 時間」、「36~53 時間」、「54~70 時間」となっている。

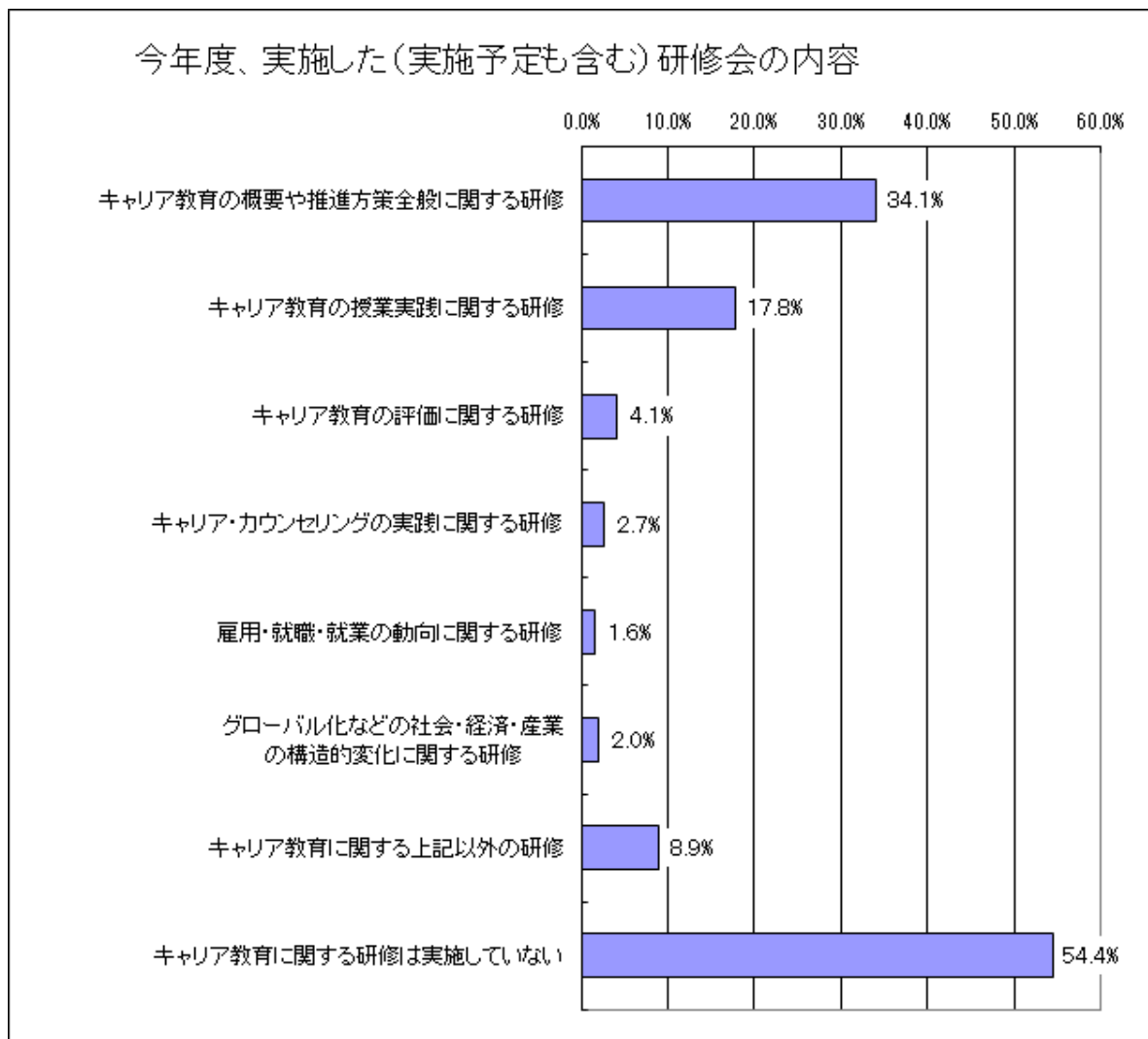
学年ごとに見ると、第3学年では「1~15 時間」が66.3%で最も高く、次いで「0 時間」16.0%、「16~35 時間」12.7%であり、「54~70 時間」は1.9%で最も低い。

第4学年では「1~15 時間」が67.0%で最も高く、次いで「16~35 時間」15.5%、「0 時間」11.0%であり、「54~70 時間」は2.0%で最も低い。

第5学年では「1~15 時間」が63.1%で最も高く、次いで「16~35 時間」18.1%、「0 時間」9.6%であり、「54~70 時間」は2.8%で最も低い。

第6学年では「1~15 時間」が61.7%で最も高く、次いで「16~35 時間」21.3%、「36~54 時間」7.9%であり、「54~70 時間」5.1%、「0 時間」4.1%と低い。

問5 今年度、貴校で実施した（実施予定も含む）研修会の内容について、当てはまるものを全て選んでください。

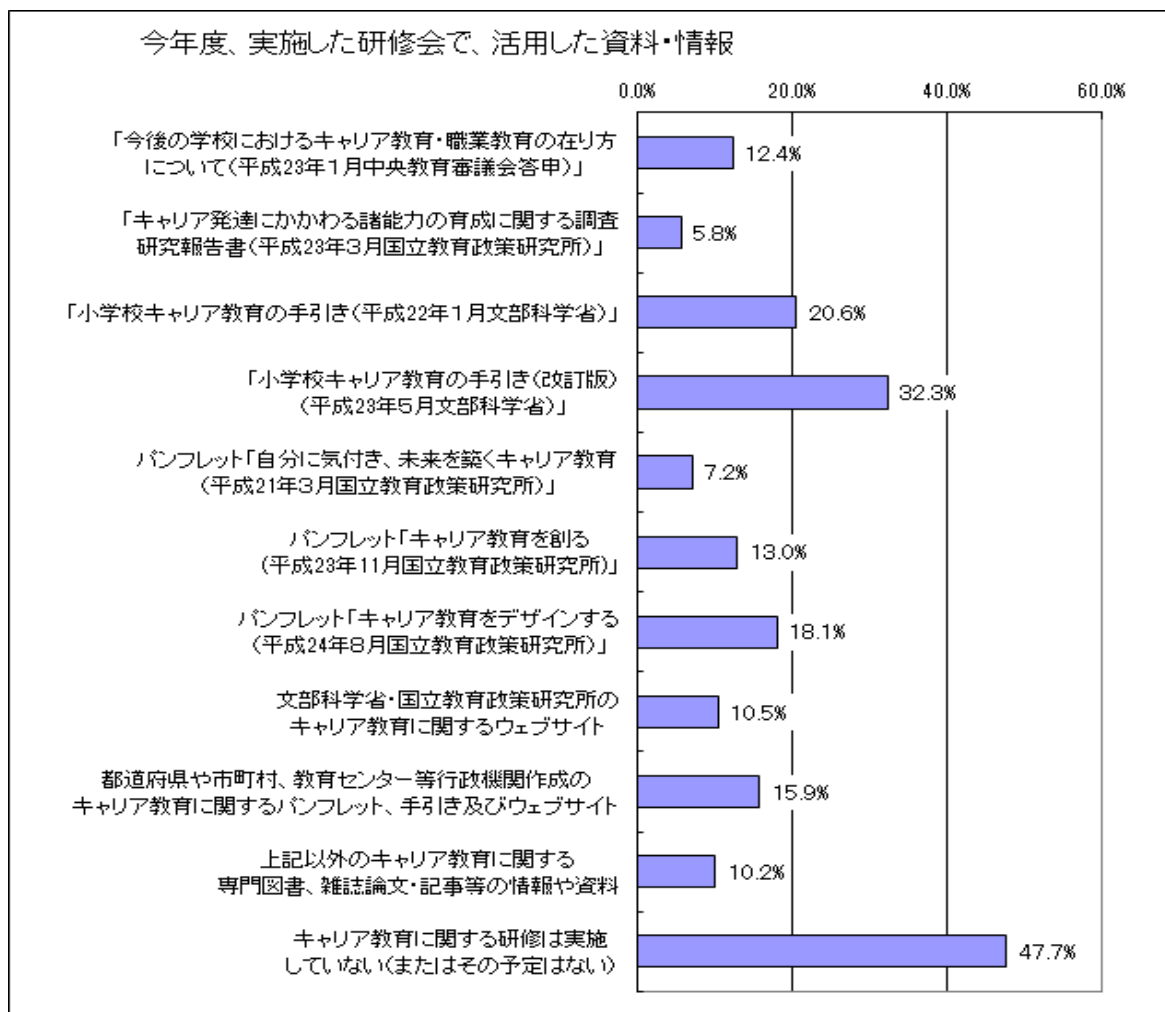


「キャリア教育に関する研修は実施していない」が 54.4%と最も高く、次いで「キャリア教育の概要や推進方策全般に関する研修」34.1%、「キャリア教育の授業実践に関する研修」17.8%となっている。

一方、「キャリア教育の評価に関する研修」4.1%、「キャリア・カウンセリングの実践に関する研修」2.7%、「グローバル化などの社会・経済・産業の構造的変化に関する研修」2.0%、「雇用・就職・就業の動向に関する研修」1.6%でこれらの項目は低くなっている。



問6 今年度、貴校で実施した（実施予定も含む）研修会で、活用した（予定の）資料や情報を全て選んでください。

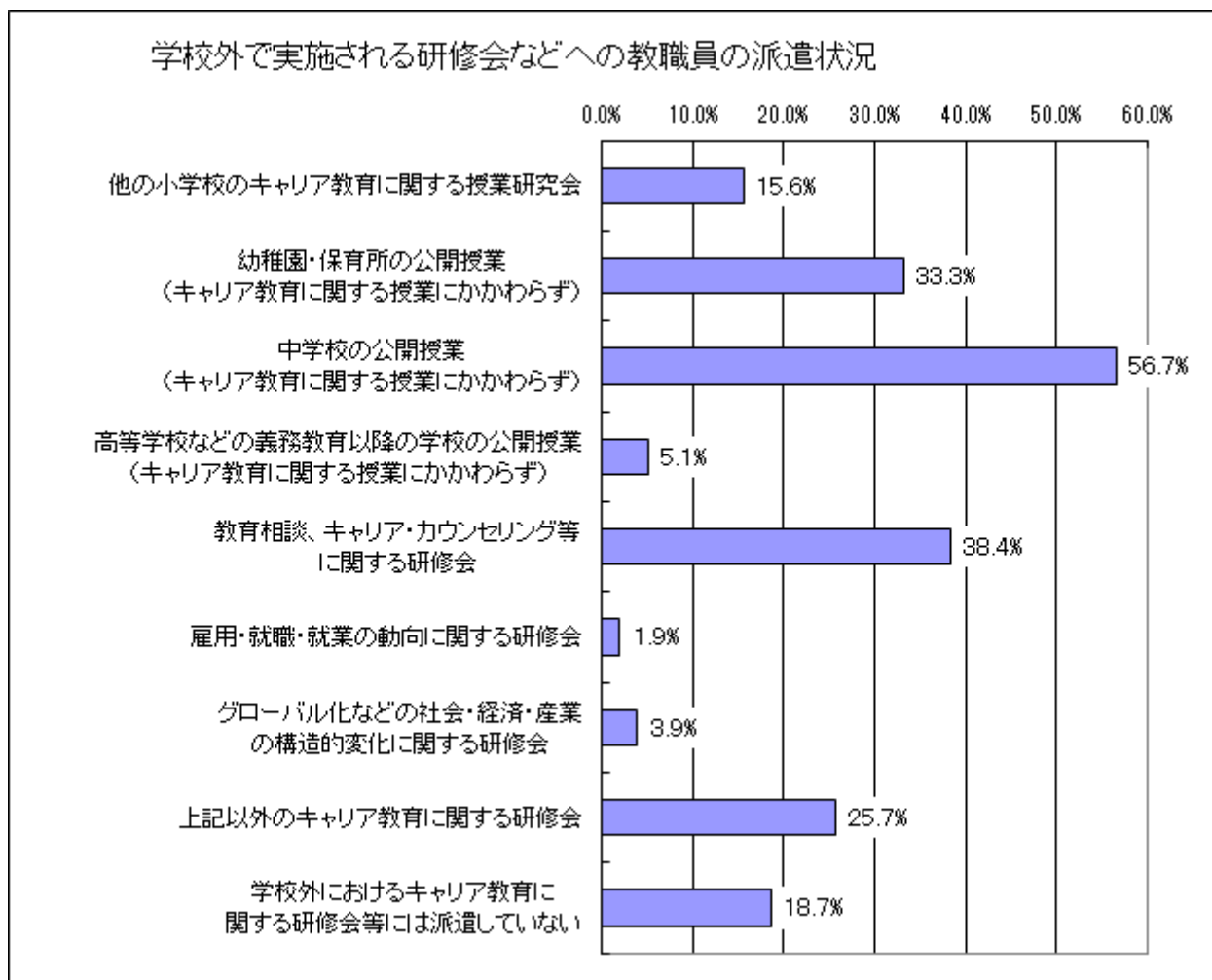


活用された資料の中では「小学校キャリア教育の手引き（改訂版）（平成 23 年 5 月文部科学省）」が 32.3%と最も高く、次いで「小学校キャリア教育の手引き（平成 22 年 1 月文部科学省）」20.6%、パンフレット「キャリア教育をデザインする（平成 24 年 8 月国立教育政策研究所）」18.1%、「都道府県や市町村、教育センター等行政機関作成のキャリア教育に関するパンフレット、手引き及びウェブサイト」15.9%、パンフレット「キャリア教育を創る（平成 23 年 11 月国立教育政策研究所）」13.0%、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（平成 23 年 1 月中央教育審議会答申）」12.4%の順になっている。

一方、「文部科学省・国立教育政策研究所のキャリア教育に関するウェブサイト」10.5%、「上記以外のキャリア教育に関する専門図書、雑誌論文・記事等の情報や資料」10.2%、「パンフレット「自分に気付き、未来を築くキャリア教育（平成 21 年 3 月国立教育政策研究所）」7.2%、「キャリア発達に関わる諸能力の育成に関する調査研究報告書（平成 23 年 3 月国立教育政策研究所）」5.8%と低くなっている。

なお、「キャリア教育に関する研修は実施していない（又はその予定はない）」は 47.7%である。

問7 今年度、学校外で実施される研修会などへの教職員の派遣状況についてお尋ねします。派遣したもの（予定も含む）を全て選んでください。

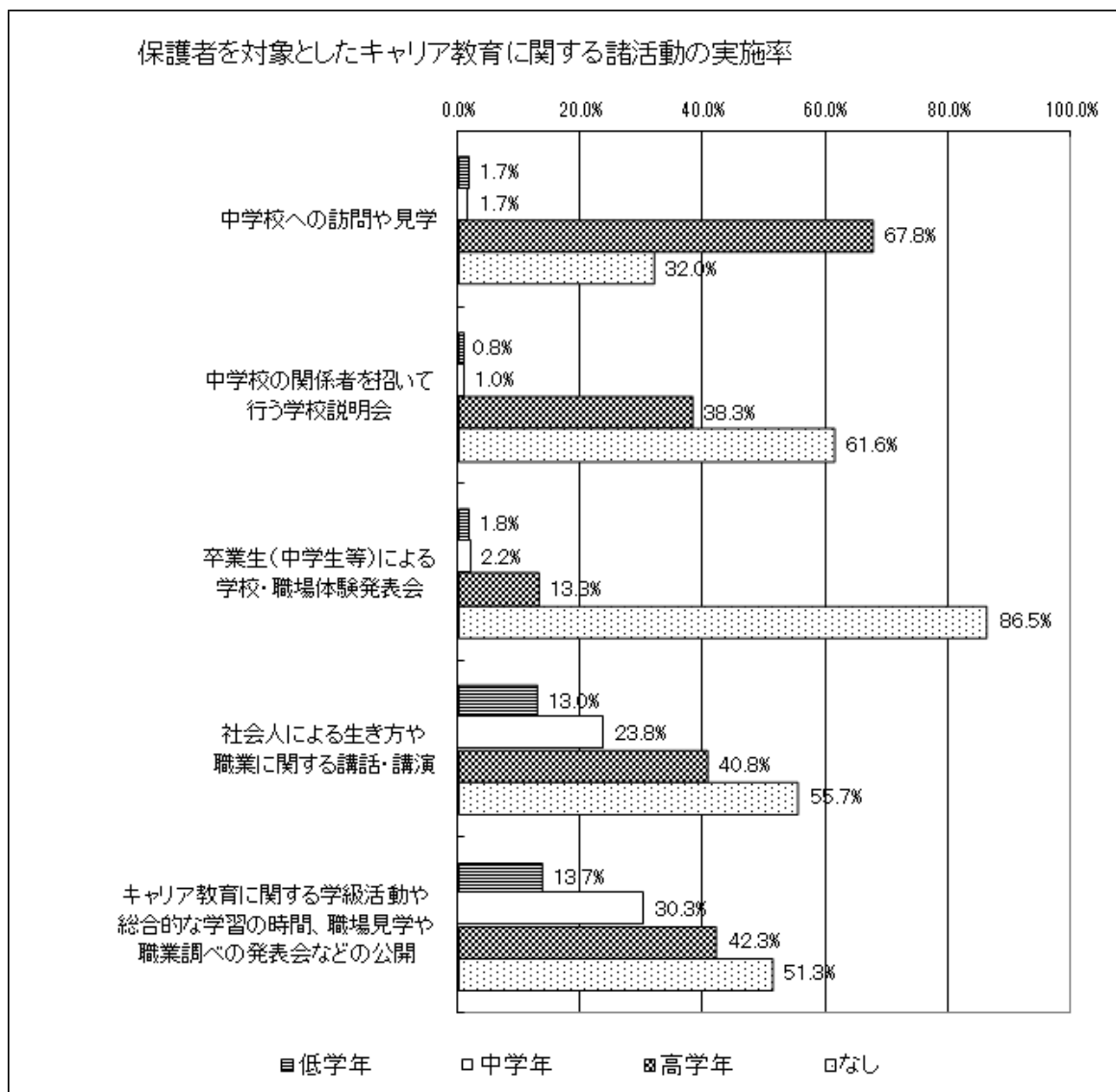


「中学校の公開授業（キャリア教育に関する授業に関わらず）」が 56.7%で最も高く、次いで、「教育相談、キャリア・カウンセリング等に関する研修会」38.4%、「幼稚園・保育所の公開授業（キャリア教育に関する授業に関わらず）」33.3%、「ほかの小学校のキャリア教育に関する授業研究会」15.6%となっている。選択項目以外のキャリア教育に関する研修会に参加している「上記以外のキャリア教育に関する研修会」は、25.7%である。

一方、「高等学校などの義務教育以降の学校の公開授業（キャリア教育に関する授業に関わらず）」5.1%、「グローバル化などの社会・経済・産業の構造的変化に関する研修会」3.9%、「雇用・就職・就業の動向に関する研修会」1.9%と低くなっている。

なお「学校外におけるキャリア教育に関する研修会等には派遣していない」18.7%である。

**問 8** 貴校が保護者を対象に企画・実施しているキャリア教育に関する諸活動についてお尋ねします。平成 24 年度において、次の(1)～(5)のそれぞれの企画・実施の有無について、実施対象学年欄の 1～4 の中から当てはまるものを全て選んでください。



全体では、「キャリア教育に関する学級活動や総合的な学習の時間、職場見学や職業調べの発表会などの公開」「社会人による生き方や職業に関する講話・講演」「中学校への訪問や見学」の順に回答が高い。

学年グループ別に見ると、低学年では、「キャリア教育に関する学級活動や総合的な学習の時間、職場見学や職業調べの発表会などの公開」13.7%が最も高く、次いで「社会人による生き方や職業に関する講話・講演」13.0%であり、「中学校の関係者を招いて行う学校説明会」は0.8%と低い。

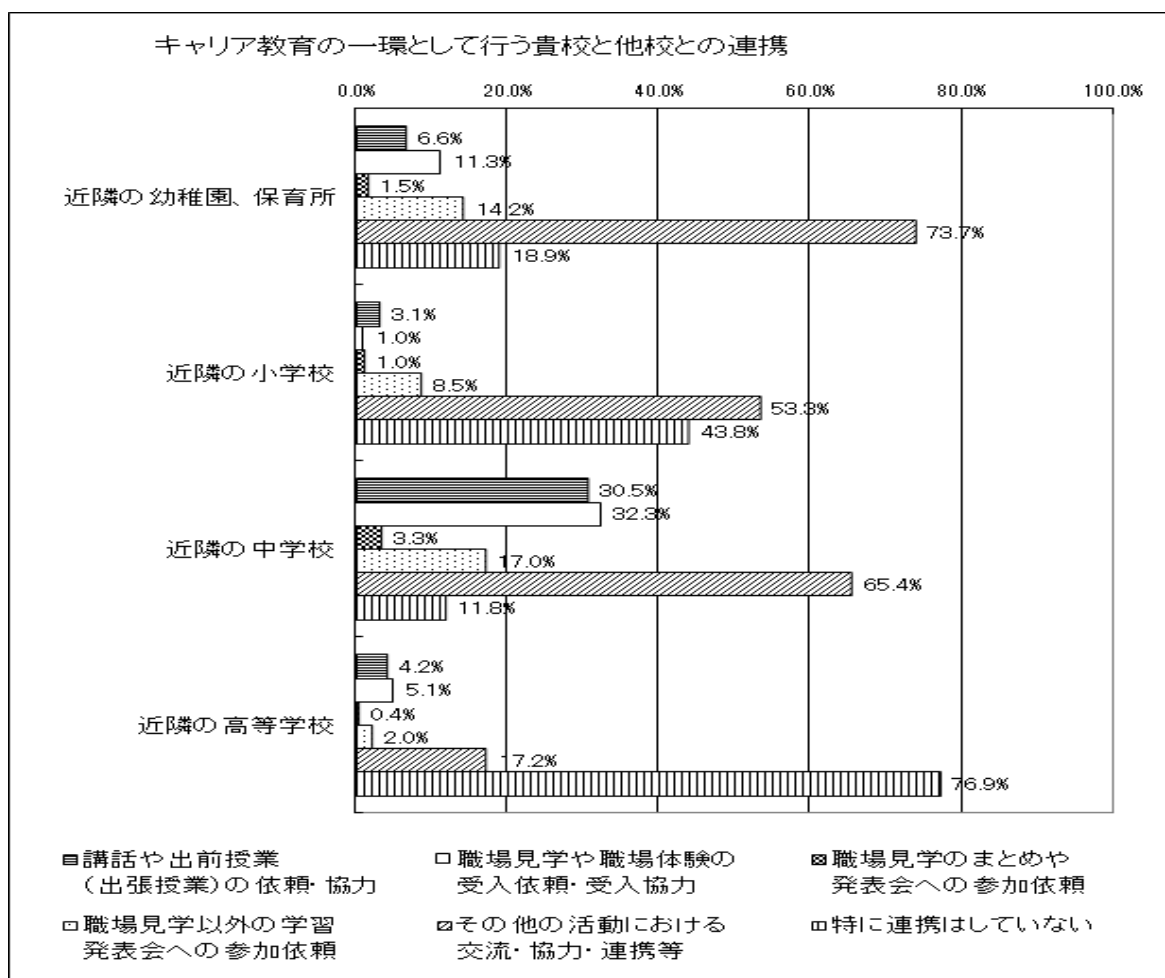
中学年では、「キャリア教育に関する学級活動や総合的な学習の時間、職場見学や職業調べの発表会などの公開」30.3%と最も高く、次いで「社会人による生き方や職業に関する講話・講演」23.8%であり、「中学校の関係者を招いて行う学校説明会」は1.0%と低い。

高学年では「中学校への訪問や見学」67.8%と最も高く、次いで「キャリア教育に関する学級活動や総合的な学習の時間、職場見学や職業調べの発表会などの公開」42.3%、「社会人による生き方や職業に関する講話・講演」40.8%、「中学校の関係者を招いて行う学校説明会」は38.3%であり、「卒業生（中学生等）による学校・職場体験発表会」は13.3%と低い。

一方、どの学年グループでも企画・実施していないものは「卒業生（中学生等）による学校・職場体験発表会」86.5%、「中学校の関係者を招いて行う学校説明会」61.6%、「社会人による生き方や職業に関する講話・講演」55.7%、「キャリア教育に関する学級活動や総合的な学習の時間、職場見学や職業調べの発表会などの公開」51.3%、「中学校への訪問や見学」32.0%となっている。

問9 キャリア教育の一環として、貴校が児童を対象として行うほかの学校や諸機関との連携についてお尋ねします。以下の設問にお答えください。

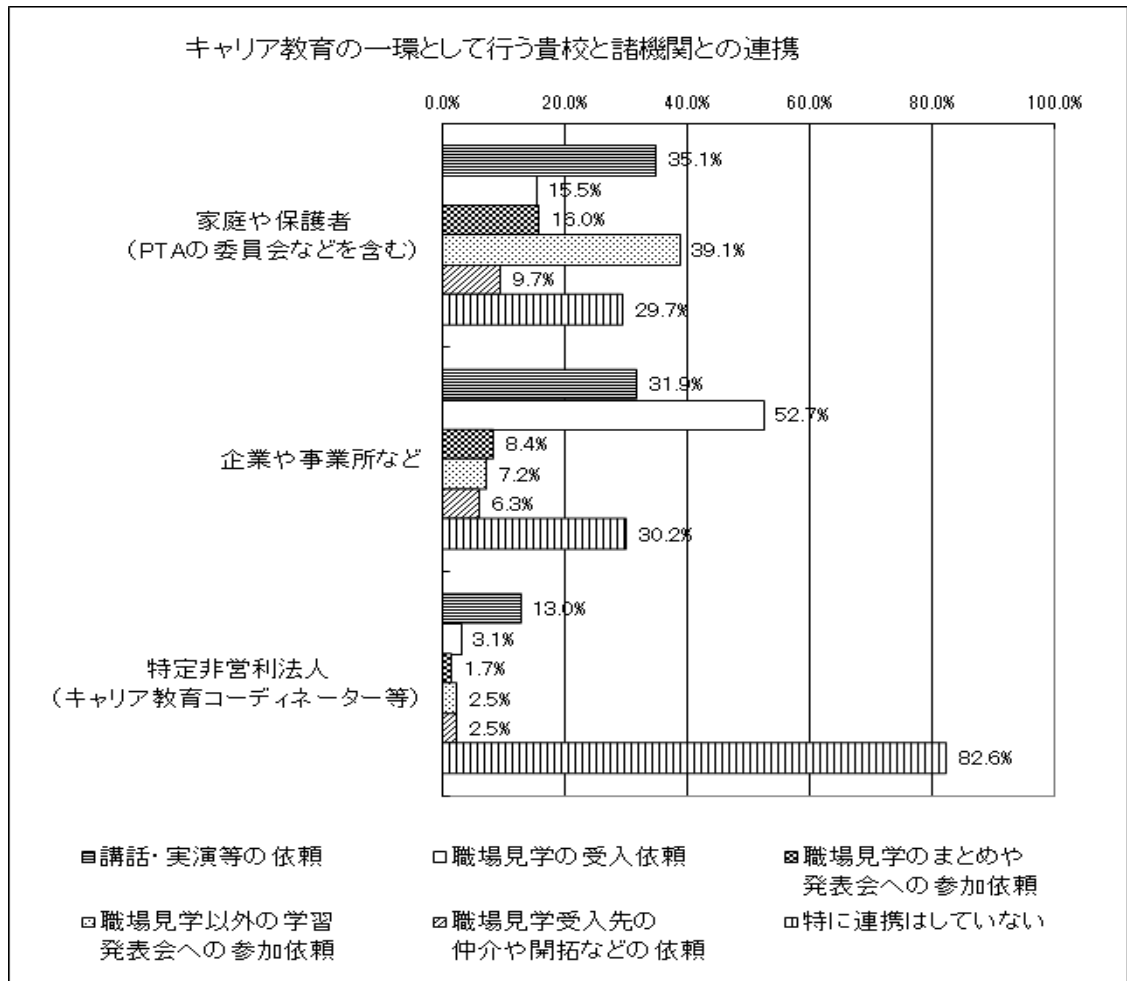
(1) 貴校とほかの学校との連携についてお尋ねします。次の①～④のそれぞれについて、当てはまるものを、連携内容欄の1～6の中から全て選んでください。



校種ごとの連携の内容について、「近隣の幼稚園、保育所」では「そのほかの活動における交流・協力・連携等」が73.7%と最も高く、次いで「職場見学以外の学習発表会への参加依頼」14.2%の順となっている。「近隣の小学校」では「そのほかの活動における交流・協力・連携等」が53.3%と最も高く、次いで「職場見学以外の学習発表会への参加依頼」8.5%の順となっている。「近隣の中学校」では「そのほかの活動における交流・協力・連携等」が65.4%と最も高く、次いで「職場見学や職場体験の受入依頼・受入協力」32.3%、「講話や出前授業（出張授業）の依頼・協力」30.5%の順となっている。「近隣の高等学校」では「そのほかの活動における交流・協力・連携等」が17.2%と最も高く、次いで「職場見学や職場体験の受入依頼・受入協力」5.1%、「講話や出前授業（出張授業）の依頼・協力」4.2%の順となっている。

一方、「特に連携はしていない」を見ると「近隣の高校」は76.9%、「近隣の小学校」43.8%、「近隣の幼稚園、保育所」18.9%、「近隣の中学校」が11.8%となっている。したがって、「近隣の中学校」「近隣の幼稚園」との連携が多い。

(2) 貴校と諸機関との連携についてお尋ねします。次の①～③のそれぞれについて、当てはまるものを、連携内容欄の1～6の中から全て選んでください。

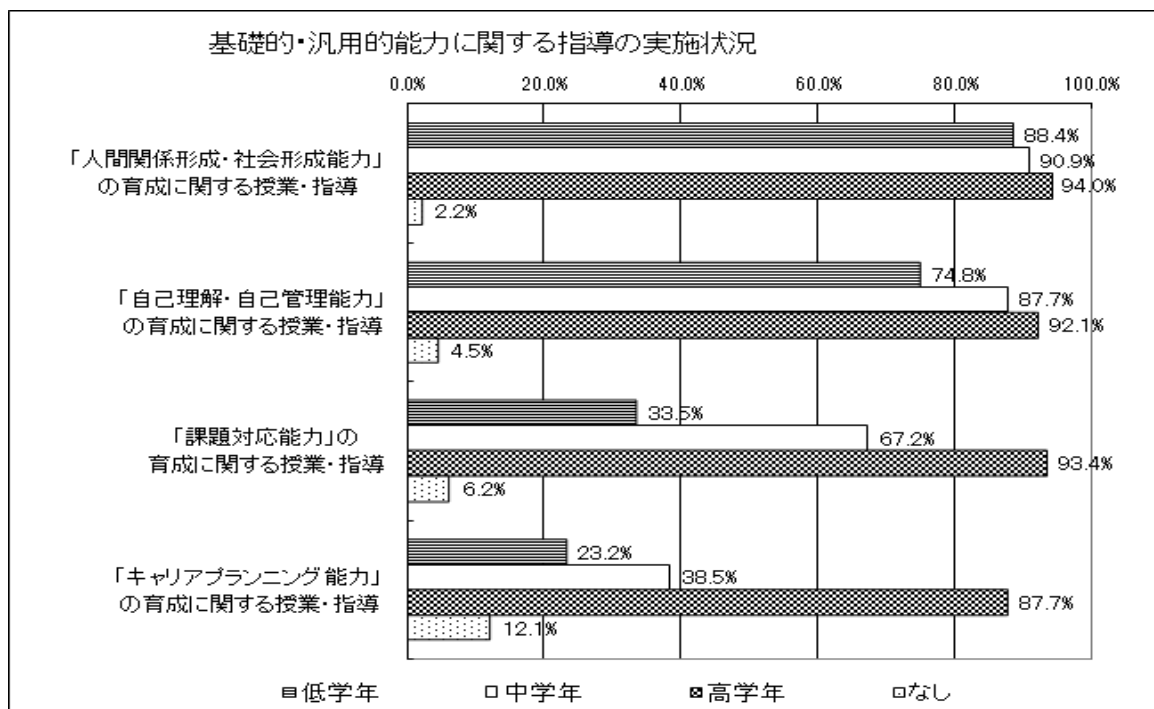


「家庭や保護者（PTAの委員会などを含む）」では、「職場見学以外の学習発表会への参加依頼」が39.1%で最も高く、次いで「講話・実演等の依頼」が35.1%、「特に連携はしていない」が29.7%となっている。一方、「職場見学のまとめや発表会への参加依頼」16.0%、「職場見学の受け入れ依頼」15.5%、「職場見学受け入れ先の仲介や開拓などの依頼」9.7%と低くなっている。

「企業や事業所など」では、「職場見学の受け入れ依頼」が52.7%で最も高く、次いで「講話・実演等の依頼」が31.9%、「特に連携はしていない」が30.2%となっている。一方、「職場見学のまとめや発表会への参加依頼」8.4%、「職場見学以外の学習発表会への参加依頼」7.2%、「職場見学受け入れ先の仲介や開拓などの依頼」6.3%と低くなっている。

「特定非営利法人（キャリア教育コーディネーター等）」では、「特に連携はしていない」が82.6%と最も高い。一方、「講話・実演等の依頼」が13.0%、「職場見学の受け入れ依頼」3.1%、「職場見学以外の学習発表会への参加依頼」及び「職場見学受け入れ先の仲介や開拓などの依頼」は2.5%、「職場見学のまとめや発表会への参加依頼」1.7%とこれらの項目は低くなっている。

**問 10** 貴校における「基礎的・汎用的能力」に関する指導状況についてお尋ねします。平成 24 年度において、次の(1)～(4)のそれぞれの指導状況について、実施対象学年欄の 1～4 の中から当てはまるものを全て選んでください。



全体では、基礎的・汎用的能力の全てについて、学年グループが上がるにつれて、指導の実施率が高くなる。

低学年では、「『人間関係形成・社会形成能力』の育成に関する授業・指導」88.4%が最も高く、次いで「『自己理解・自己管理能力』の育成に関する授業・指導」74.8%である。それに対して「『課題対応能力』の育成に関する授業・指導」33.5%「『キャリアプランニング能力』の育成に関する授業・指導」23.2%は低い。

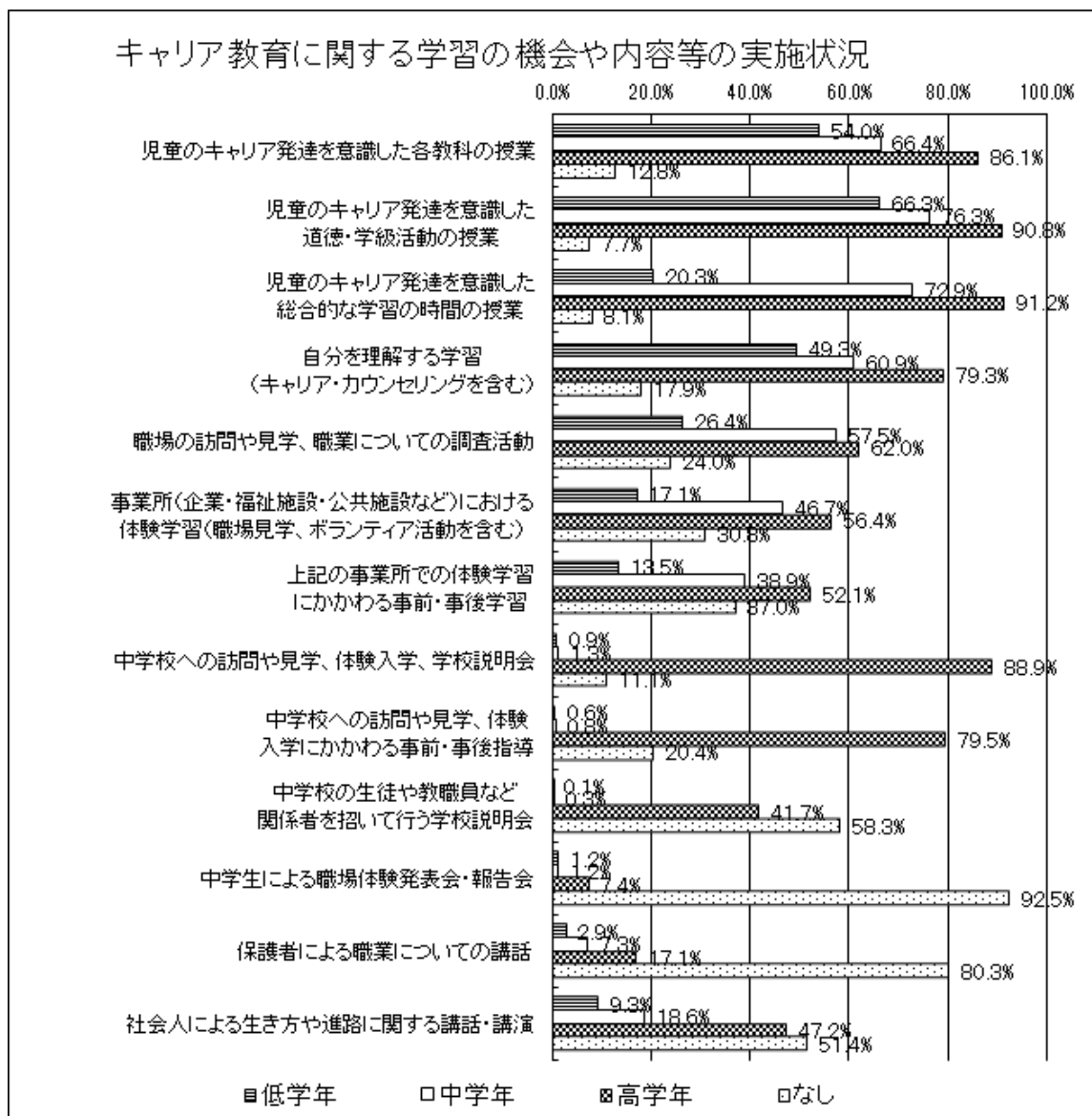
中学年では、「『人間関係形成・社会形成能力』の育成に関する授業・指導」90.9%が最も高く、次いで「『自己理解・自己管理能力』の育成に関する授業・指導」87.7%、「『課題対応能力』の育成に関する授業・指導」67.2%の順である。それに対して、「『キャリアプランニング能力』の育成に関する授業・指導」38.5%は低い。

高学年では、「『人間関係形成・社会形成能力』の育成に関する授業・指導」94.0%が最も高く、次いで「『課題対応能力』の育成に関する授業・指導」93.4%、「『自己理解・自己管理能力』の育成に関する授業・指導」92.1%、「『キャリアプランニング能力』の育成に関する授業・指導」87.7%の順である。

一方、どの学年グループでも実施していないものは、「『キャリアプランニング能力』の育成に関する授業・指導」が12.1%で最も高く、次いで「『課題対応能力』の育成に関する授業・指導」6.2%、「『自己理解・自己管理能力』の育成に関する授業・指導」4.5%、「『人間関係形成・社会形成能力』の育成に関する授業・指導」2.2%である。

問 11 貴校が教育課程の中で、児童を対象に企画・実施しているキャリア教育に関する学習の機会や内容等についてお尋ねします。

平成 24 年度において、次の(1)～(13)のそれぞれの企画・実施の有無について、実施対象学年欄の 1～4 の中から当てはまるものを全て選んでください。



「キャリア教育に関する教育課程上の 3 項目」では

小学校で企画・実施されているキャリア教育の教育課程上の位置付け(100%から「なし」を引いた割合)を見てみると、「児童のキャリア発達を意識した道徳・学級活動の授業」92.3%が最も高く、次いで「児童のキャリア発達を意識した総合的な学習の時間」91.9%、「児童のキャリア発達を意識した各教科の授業」87.2%の順である。

低学年は、「児童のキャリア発達を意識した道徳・学級活動の授業」が 66.3%と最も高く、次いで「児童のキャリア発達を意識した各教科の授業」54.0%、「児童のキャリア発達を意識した総合的な学習の時間」20.3%の順である。



中学年は、「児童のキャリア発達を意識した道徳・学級活動の授業」が76.3%と最も高く、次いで「児童のキャリア発達を意識した総合的な学習の時間」72.9%、「児童のキャリア発達を意識した各教科の授業」66.4%の順である。

高学年は「児童のキャリア発達を意識した総合的な学習の時間」が91.2%と最も高く、次いで「児童のキャリア発達を意識した道徳・学級活動の授業」90.8%、「児童のキャリア発達を意識した各教科の授業」86.1%の順である。

#### 「キャリア教育に関する学習の内容等」では

小学校で企画・実施されているキャリア教育の具体的な内容（100%から「なし」を引いた割合）を見てみると、「中学校への訪問や見学、体験入学、学校説明会」88.9%が最も多く、「自分を理解する学習（キャリア・カウンセリングを含む）」82.1%、「中学校への訪問や見学、体験入学に関わる事前・事後学習」79.6%の順である。

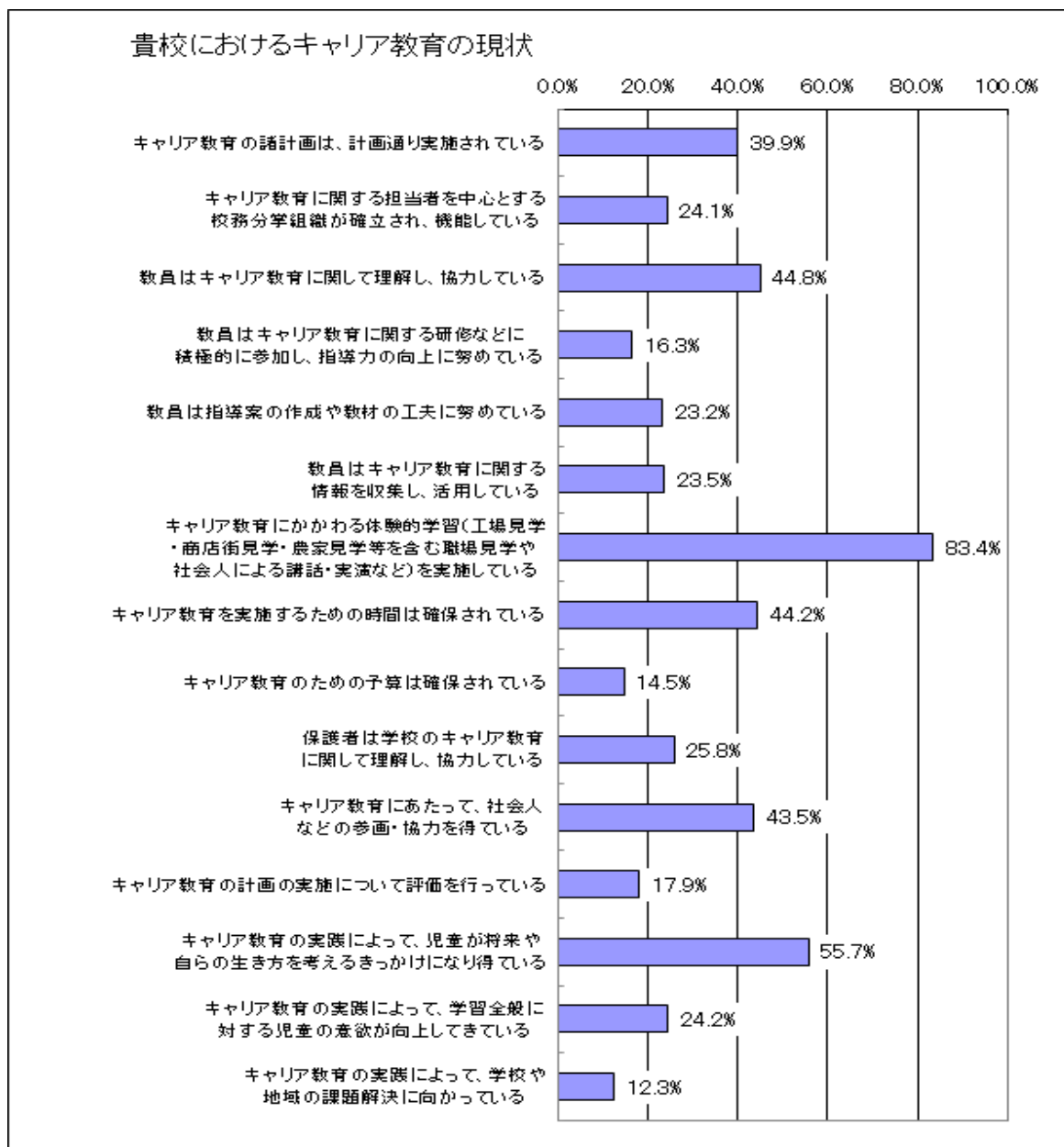
低学年では、「自分を理解する学習（キャリア・カウンセリングを含む）」49.3%と最も高く、次いで「職場の訪問や見学、職業についての調査活動」26.4%「事業所（企業・福祉施設・公共施設など）における体験学習（職場見学、ボランティア活動を含む）」17.1%「上記の事業所での体験学習に関わる事前・事後学習」13.5%、「社会人による生き方や進路に関する講話・講演」9.3%の順である。一方「中学生による職場体験発表会・報告会」1.2%、「中学校への訪問や見学、学校説明会」0.9%、「中学校への訪問や見学、体験入学に関わる事前・事後指導」0.6%、「中学生による職場体験発表会・報告会係者を招いて行う学校説明会」0.1%と低い。

中学年でも、「自分を理解する学習（キャリア・カウンセリングを含む）」60.9%が最も高く、次いで「職場の訪問や見学、職業についての調査活動」57.5%、「事業所（企業・福祉施設・公共施設など）における体験学習（職場見学、ボランティア活動を含む）」46.7%「上記の事業所での体験学習に関わる事前・事後学習」38.9%、「社会人による生き方や進路に関する講話・講演」18.6%の順である。一方「中学校への訪問や見学、体験入学、学校説明会」1.3%、「中学生による職場体験発表会・報告会」1.2%、「中学校への訪問や見学、体験入学に関わる事前・事後指導」0.8%、「中学校の生徒や教職員など関係者を招いて行う学校説明会」0.3%と低い。

高学年では、「中学校への訪問や見学、体験入学、学校説明会」88.9%が最も高く、次いで「中学校への訪問や見学、体験入学に関わる事前・事後指導」79.5%、「自分を理解する学習（キャリア・カウンセリングを含む）」79.3%、「事業所（企業・福祉施設・公共施設など）における体験学習（職場見学、ボランティア活動を含む）」56.4%、「上記の事業所での体験学習に関わる事前・事後学習」52.1%、「社会人による生き方や進路に関する講話・講演」47.2%、「中学校の生徒や教職員など関係者を招いて行う学校説明会」41.7%の順である。一方、「保護者による職業についての講話」17.1%、「中学生による職場体験発表会・報告会」7.4%と低い。

なお、どの学年グループでも実施していないものは「中学生による職場体験発表会・報告会」92.5%が最も高く、次いで「保護者による職業についての講話」80.3%、「中学校の生徒や教職員など関係者を招いて行う学校説明会」58.3%、「社会人による生き方や進路に関する講話・講演」51.4%となっている。

問 12 貴校におけるキャリア教育の現状についてお尋ねします。全校的な立場から「そのとおりである」と思うものを全て選んでください。



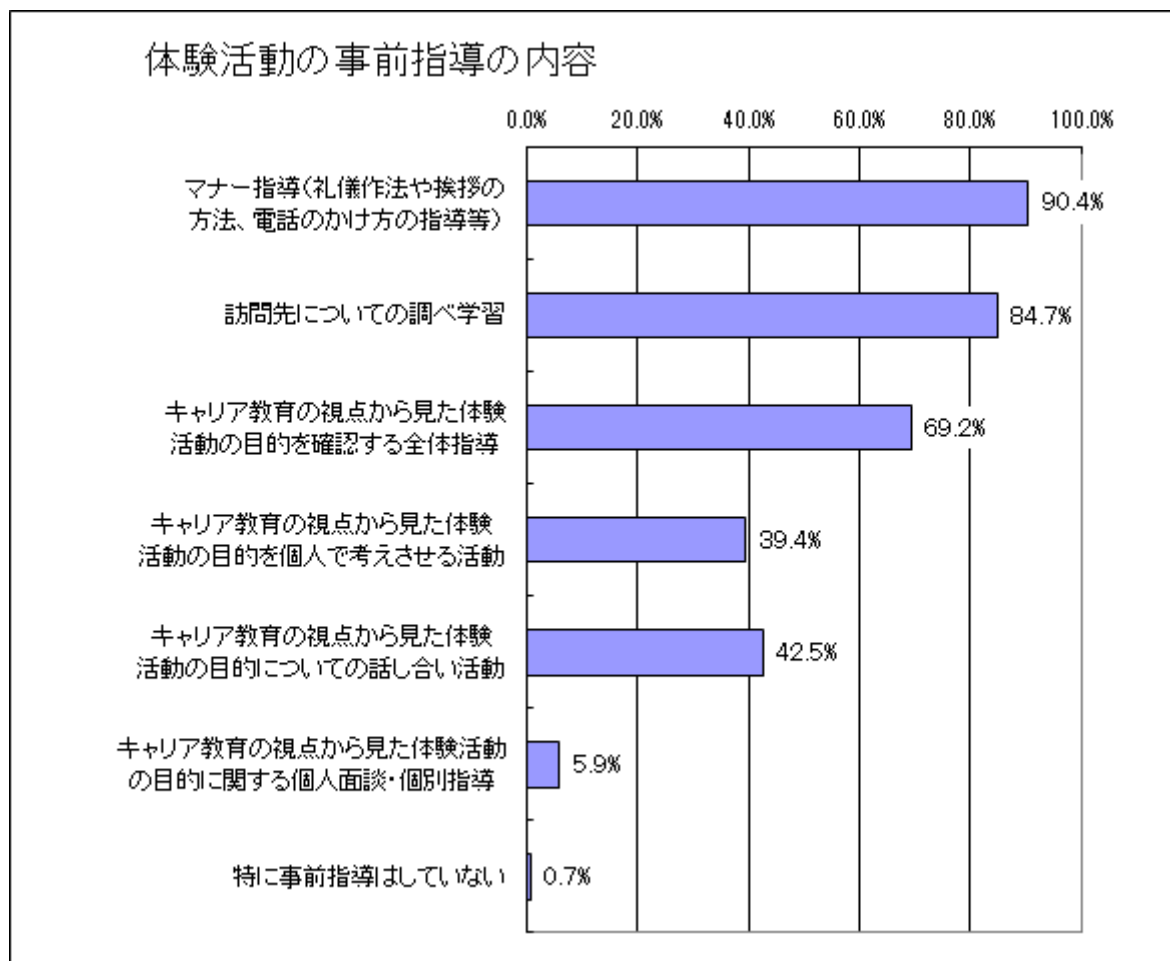
「キャリア教育に関わる体験学習を実施している（工場見学・商店街見学・農家見学等を含む職場見学や社会人による講話・実演など）」が 83.4%で最も高く、次いで「キャリア教育の実践によって、児童が将来や自らの生き方を考えるきっかけになり得ている」55.7%、「教員はキャリア教育に関して理解し、協力している」44.8%、「キャリア教育を実施するための時間は確保されている」44.2%、「キャリア教育にあたって、社会人などの参画・協力を得ている」43.5%の順である。

一方、「キャリア教育の計画の実施について評価を行っている」17.9%、「教員はキャリア教育に関する研修などに積極的に参加し、指導力の向上に努めている」16.3%、「キャリア教育の予算は確保されている」14.5%、「キャリア教育の実践によって、学校や地域の課題解決に向かっている」12.3%は低い。

問 13 問 12 の選択肢 7（「キャリア教育に関わる体験的な学習（工場見学・商店街見学・農家見学等を含む職場見学や社会人による講話・実演など）を実施している」）を選択した方にお尋ねします。

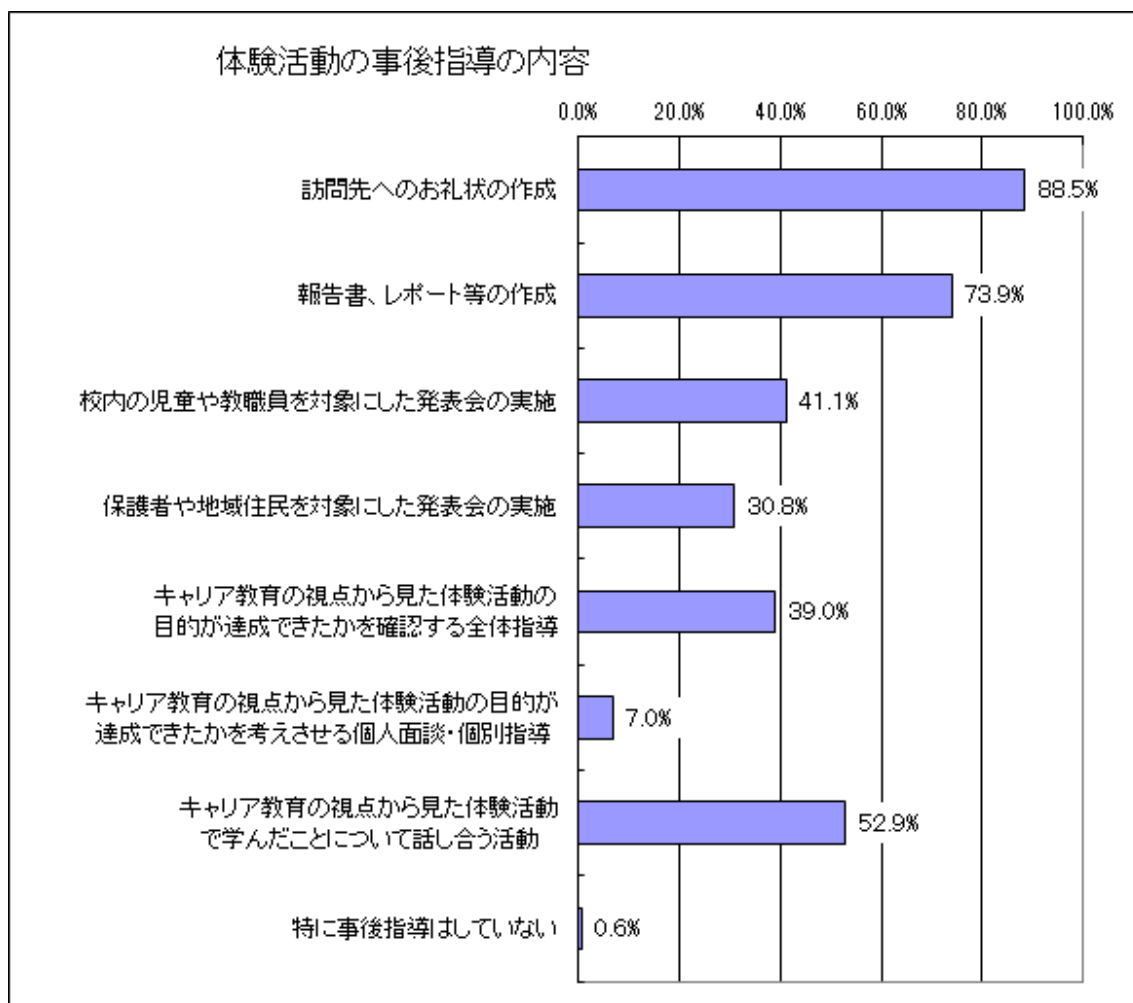
体験活動の事前指導・事後指導について、どのような内容のものを実施しましたか（予定も含む）。次の(1)(2)について、それぞれ当てはまるものを全て選んでください。

(1) 事前指導について



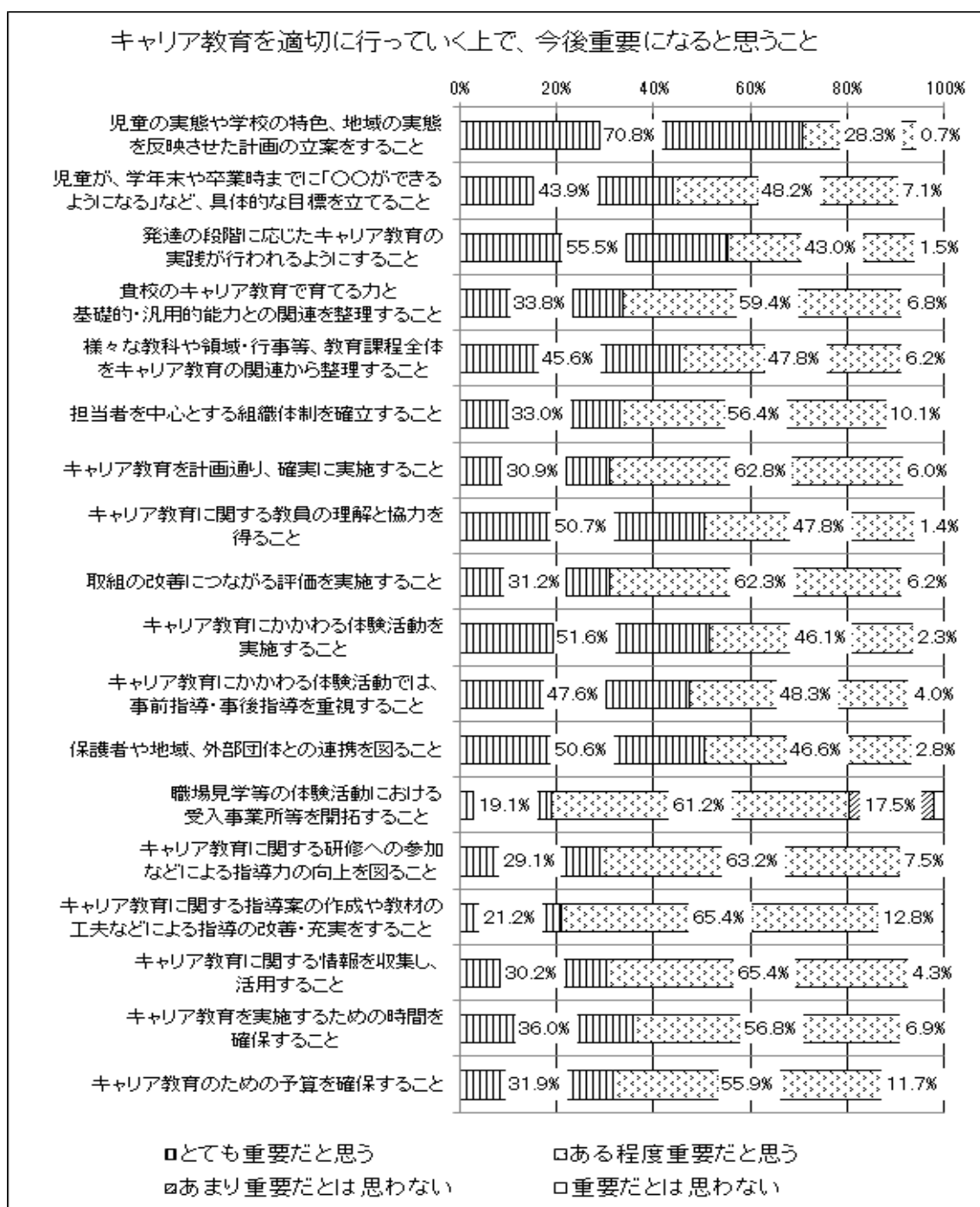
「マナー指導（礼儀作法や挨拶の方法、電話のかけ方の指導等）」が 90.4%と最も高く、次いで「訪問先についての調べ学習」84.7%、「キャリア教育の視点から見た体験活動の目的を確認する全体指導」69.2%となっている。一方、「キャリア教育の視点から見た体験活動の目的に関する個人面談・個別指導」は 5.9%、「特に事前指導はしていない」0.7%と低い。

## (2) 事後指導について



「訪問先への御礼状の作成」が 88.5%と最も高く、次いで「報告書、レポート等の作成」73.9%、「キャリア教育の視点から見た体験活動で学んだことについて話し合う活動」52.9%となっている。一方、「キャリア教育の視点から見た体験活動の目的が達成できたかを考えさせる個人面談・個別指導」は 7.0%、「特に事後指導はしていない」0.6%と低い。

問 14 貴校がキャリア教育を適切に行っていく上で、現状から見て、今後どのようなことが重要になるとお考えですか。次の(1)～(18)のそれぞれについて、当てはまるものを1～4の中から一つずつ選んでください。

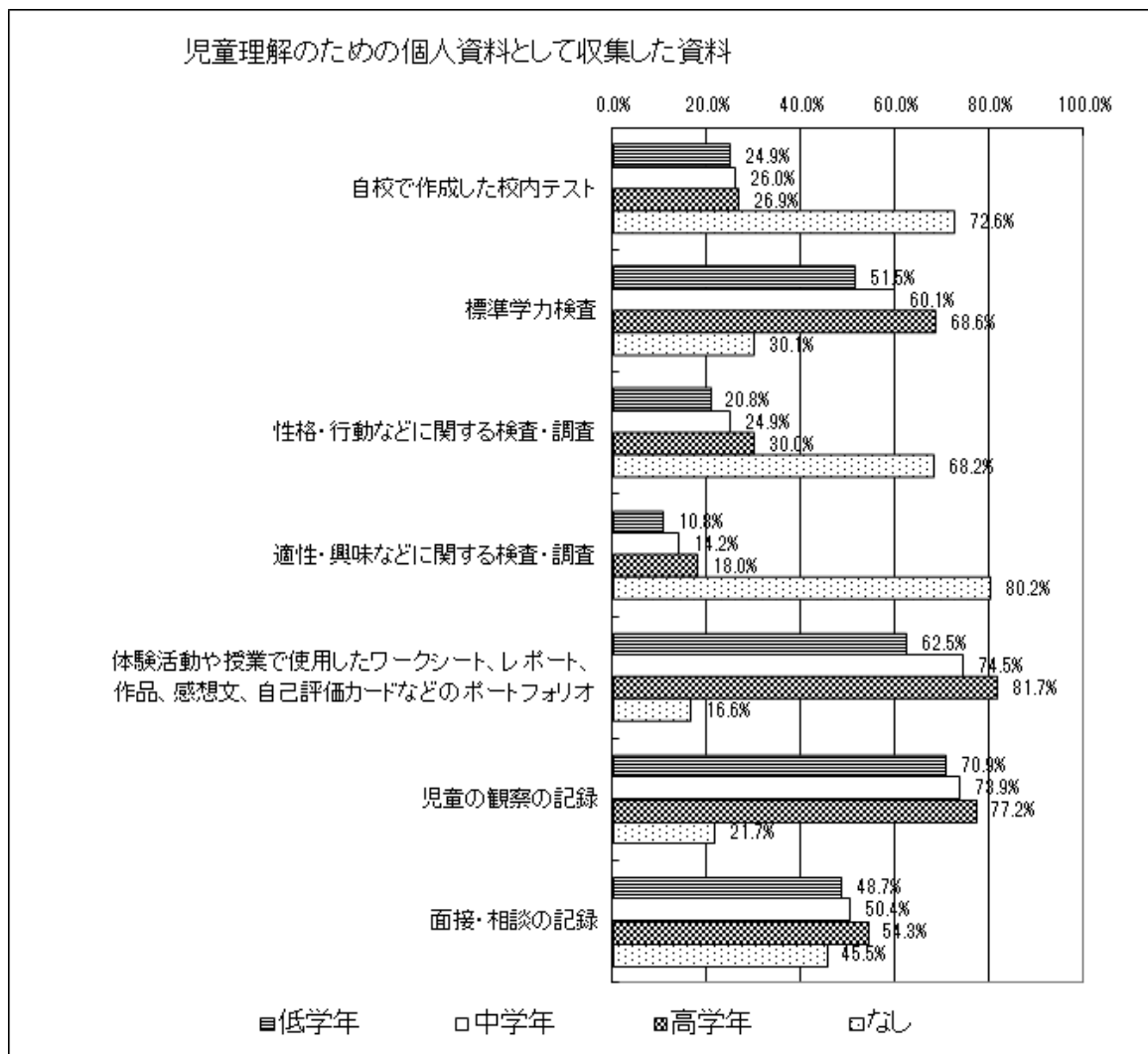


「とても重要だと思う」という回答は、「児童の実態や学校の特色、地域の実態を反映させた計画の立案をすること」が、70.8%と最も高く、次いで「発達の段階に応じたキャリア教育の実践が行われるようにすること」55.5%、「キャリア教育に関わる体験活動を実施すること」51.6%の順となっている。

一方、「キャリア教育に関する指導案の作成や教材の工夫などによる指導の改善・充実をすること」21.2%、「職場見学等の体験活動における受入事業所等を開拓すること」19.1%で、これらの項目はやや低くなっている。

問 15 貴校がキャリア教育における「児童理解のための個人資料」として利用するために、平成 24 年度に収集した（実施・収集予定を含む）資料についてお尋ねします。

平成 24 年度において、次の(1)～(7)のそれぞれの資料収集の有無について、実施対象学年欄の 1～4 の中から当てはまるものを全て選んでください。



全体では、学年グループが上がるにつれて「児童理解のための個人資料」の収集率が高くなる。

低学年では、「児童の観察の記録」70.9%が最も高く、次いで「体験活動や授業で使ったワークシート、レポート、作品、感想文、自己評価カードなどのポートフォリオ」62.5%、「標準学力検査」51.5%、「面接・相談の記録」48.7%である。一方、「自校で作成した校内テスト」24.9%、「性格・行動などに関する検査・調査」20.8%、「適正・興味などに関する検査・調査」10.8%と低い。

中学年では、「体験活動や授業で使ったワークシート、レポート、作品、感想文、自己評価カードなどのポートフォリオ」74.5%が最も高く、次いで「児童の観察の記録」73.9%、「標準学力検査」60.1%、「面接・相談の記録」50.4%である。一方、「自校で作成した校内テスト」26.0%、「性格・行動などに関する検査・調査」24.9%、「適正・興味などに関する検査・調査」14.2%と低い。

高学年では、「体験活動や授業で使用したワークシート、レポート、作品、感想文、自己評価カードなどのポートフォリオ」81.7%が最も高く、次いで「児童の観察の記録」77.2%、「標準学力検査」68.6%、「面接・相談の記録」54.3%である。一方、「自校で作成した校内テスト」26.9%、「性格・行動などに関する検査・調査」30.0%、「適正・興味などに関する検査・調査」18.0%と低い。

なお、どの学年グループでも実施していないものは、「適正・興味などに関する検査・調査」80.2%と最も高く、次いで「自校で作成した校内テスト」72.6%、「性格・行動などに関する検査・調査」68.2%、「面接・相談の記録」45.5%の順である。